IBM Operational Decision Manager バージョン 8 リリース 5

インストール・ガイド



・お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、63ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Operational Decision Manager バージョン 8 リリース 5 モディフィケーション 1、および新しい版で明記さ れていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示さ れたりする場合があります。

- 原典: IBM Operational Decision Manager Version 8 Release 5 Installation Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- 第1刷 2013.11
- © Copyright IBM Corporation 2008, 2013.

目次

インストール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
インストール可能なコンポーネント	1
Operational Decision Manager ライセンス	1
準備ステップ	5
製品インストーラーのダウンロード	5
ソフトウェア要件の確認	7
インストール・オプション	9
概要..................	9
標準インストール	11
カスタム・インストール	11
ランチパッドによる製品のインストール	13
ランチパッドの開始	13
サンプル・サーバーによる製品のインストール .	15
カスタム構成のインストール	18
Installation Manager による製品のインストール	21
Installation Manager の概要	23
ユーザー特権	24
パッケージ・グループおよび共有ディレクトリ	
	24
言語	25
Installation Manager 設定のセットアップ	26
Installation Manager の実行	26
互換性のある IBM 製品への Operational Decision	
Manager のインストール	29
既存の Eclipse 環境への製品のインストール	30
必要なプラグインおよびパッチ・レベルのイン	
ストール	30
既存の Eclipse 環境の拡張	30
インストールするフィーチャーの選択	31
サイレント・モードでのインストール	38
Installation Manager のサイレント・インストール	39

必須ソフトウェア用の応答ファイルの設定 3	39
Decision Server および Decision Center 用の応答	
ファイルの設定	40
Profile templates for WebSphere Application Server	
用の応答ファイルの設定...........	42
Operational Decision Manager のサイレント・イン	
ストール	43
Rule Solutions for Office \mathcal{O}	45
インストールの確認	45
インストール・ディレクトリー内のフォルダー . 4	45
メニューのショートカット	47
ショートカット・コマンド	49
資料のローカルへのインストールおよびアクセス	51
コンピューターへの製品資料のインストール :	52
Rule Designer でのローカル・コンテキスト・ヘル	
プヘのアクセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
社内ネットワーク上での共有インフォメーショ	
ン・センターの実行	54
ローカル・ヘルプの停止	56
インストールのトラブルシューティング	56
プロセスを自動化する環境のセットアップ	57
次の作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57
別のバージョンへのアップグレード	59
Operational Decision Manager $\wedge \mathcal{O}$ Operational	
Decision Manager Express のアップグレード	59
バージョン 8.5 からバージョン 8.5.1 へのアップ	
	60
製品のアンインストール	60
特記事項 6	53
商標	65

インストール

IBM[®] Operational Decision Manager インストーラーは、さまざまなサーバー・トポ ロジーで製品をインストールする、いくつかのインストール・オプション (標準お よびカスタム) を提供します。

製品のインストールは、サンプル・サーバー (製品フィーチャーをテストし、サン プルおよびチュートリアルを実行したい場合)、 WebSphere[®] Application Server (ク ラスター環境を活用したい場合)、またはその他のサポートされているアプリケーシ ョン・サーバーで行うことができます。

また、複数のコンピューターに製品をインストールする意図がある場合は、サイレ ント・インストールを実行することができます。

インストールを続行する前に、インストールしたい製品について有効なライセンス を所有していることを確認してください。

インストール可能なコンポーネント

IBM Operational Decision Manager は、さまざまなフィーチャーを提供する複数のコ ンポーネントで構成されています。所有しているライセンスのタイプに応じて、コ ンポーネントの一部またはすべてをインストールできます。

製品の標準バージョン、Operational Decision Manager Express、または Decision Server Rules Edition をインストールできます。

このインストーラーには、製品のコンポーネントのほかに、Operational Decision Manager が特定の構成と連動するために必要な一組のソフトウェアが同梱されています。

必要なソフトウェアについて詳しくは、7ページの『ソフトウェア要件の確認』を 参照してください。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

Operational Decision Manager ライセンス

Operational Decision Manager は、以下の 3 種類の製品ライセンスで使用可能で す。

- Operational Decision Manager
- · Operational Decision Manager Express
- Decision Server Rules Edition

The Operational Decision Manager ライセンスは、ビジネス・ルールとイベント機能の両方へのアクセスを認可します。

Operational Decision Manager Express ライセンスは、ビジネス・ルールを制限付き で構成する機能へのアクセスを認可します。イベント機能は含まれません。さら に、 Operational Decision Manager Express は、クラスター環境では使用できませ ん。そしてアクセスできる機能にも制限があります。詳しくは、ライセンスの条項 を確認してください。

Decision Server Rules Edition ライセンスは、ルール機能へのアクセスを認可します。

所有しているライセンスに応じて、以下に示す Operational Decision Manager コン ポーネントの一部またはすべてをインストールできます。

インストーノ	レ可能なコンポーネント	Operational Decision Manager	Operational Decision Manager Express	Decision Server Rules Edition
Decision Server	Rule Designer 開発者、モデラー、お よびアーキテクト向け のビジネス・ルール・ アプリケーション開発 ツール。	はい	はい	はい
	Event Designer 開発者、モデラー、ア ーキテクト向けのイベ ント・アプリケーショ ン開発ツール。	はい	えいい え	いいえ
	Rule Execution Server ルール・エンジンを組 み込んだ管理型ビジネ ス・ルール実行プラッ トフォーム。	はい	はい	はい
	Event Runtime イベント・ランタイム は、アプリケーション 開発時に定義されたリ アルタイム・ビジネ ス・イベントの調整を 管理します。	はい	いいえ	いいえ
	 イベント・ウィジェット イベント・ウィジェットにより、ビジネス・ユーザーは、 Operational Decision Manager やその他の WebSphere 製品が提供するコンテンツとやり 取りすることができます。 	はい	NNŽ	いいえ

		Operational	Operational Decision	
		Decision	Manager	Decision Server
インストール	レ可能なコンポーネント	Manager	Express	Rules Edition
Decision	Business console &	はい	はい	
Center	Enterprise console			
	Business Console は、 ビジネス・ルールのオ ーサリング、検索、お よび管理用ポリシー・ マネージャー・ツール です。			
	Enterprise Console は、ビジネス・ルール およびイベントのオー サリングと管理のため のビジネス・アナリス ト向けツールです。			
	Rule Solutions for	はい	はい	
	Office			
	Rule Solutions for Office は、ビジネス・ ユーザーが Microsoft Word および Excel で ルール作成を行うため の環境です。			
	イベント・ウィジェッ ト	はい	いいえ	
	イベント・ウィジェッ トを使用することによ り、ビジネス・ユーザ ーは、 Operational Decision Manager およ びその他の WebSphere 製品が提供するコンテ ンツとやり取りするこ とができます。			
Profile templates for WebSphere		はい	いいえ	はい
Application Server				
このコンポー Application Se Decision Mana ルールおよび ル・テンプレ まれています	ネントには、WebSphere erver に Operational ager を配布するための イベント・プロファイ ートとランタイムが含 。			

	Operational	Operational Decision	
	Decision	Manager	Decision Server
インストール可能なコンポーネント	Manager	Express	Rules Edition
Business Rules Embedded	はい	いいえ	はい
このコンポーネントには、アプリケ ーションにビジネス・ルール機能を 追加するための開発環境が含まれて います。			
サンプル・サーバー	はい	はい	はい
このコンポーネントには、 WebSphere Application Server Network Deployment でアプリケーシ ョン、サンプル、およびチュートリ アルを実行するためのサーバーが含 まれています。			

準備ステップ

Operational Decision Manager をインストールする前に、インストーラーをダウンロ ードし、好みのアーカイブ・ユーティリティーを使用してインストーラーを解凍し ておく必要があります。また、前提ソフトウェアをインストールしておく必要もあ ります。

製品インストーラーのダウンロード

Operational Decision Manager をインストールするには、ご使用のコンピューターに インストール・ディスクをコピーまたはダウンロードする必要があります。ファイ ルをダウンロードした場合は、好みのアーカイブ・ユーティリティーを使用して、 ダウンロードしたファイルを解凍する必要があります。

このタスクについて

インストール・ファイルは、DVD で入手することもできれば、IBM Web サイトか らダウンロードすることもできます。 DVD からのインストールの開始は時間がか かることがあります。したがって、インストールを開始する前に、ご使用のコンピ ューターにインストーラー・ファイルをコピーまたはダウンロードすることをお勧 めします。

インストールするコンポーネントに対応するディスクのみをご使用のコンピュータ ーにコピーまたはダウンロードできます。必ず、必要なすべてのディスクを同じデ ィレクトリーにインストールするようにしてください。

手順

1. ターゲット・オペレーティング・システムに対応した tar ファイルを選択しま す。 ファイルの抽出時に問題が起こらないようにするために、ディレクトリーへのパスは短めにしてください。例えば、tar ファイルを、ハード・ディスクのルート (C:¥0DM851) に抽出できます。

- 2. 以下のように、ファイルを抽出します。
 - WinZip を使用する場合、「Option」 > 「Configuration」 > 「Miscellaneous」の「TAR file smart CR/LF conversion」をクリアします。
 - AIX[®] ユーザーの場合、ネイティブの UNIX tar コマンドと、このコマンドの GNU バージョンの両方を使用する必要があります。理由は、ネイティブの ユーティリティーでは、長いファイル名がサポートされていないからです。

タスクの結果

抽出の結果、disk1、disk2、および disk3 という 3 つのフォルダーが生成されま す。各フォルダーには、以下の共通要素が含まれています。

- ランチパッド実行可能ファイル。製品コンポーネントを必要なソフトウェアと一緒にインストールするために使用します。
- Installation Manager。Operational Decision Manager コンポーネントのインストー ルを続行するために使用します。
- 応答ファイル・セット。製品をサイレント・モードでインストールする場合に使用します。

さらに、各ディスクには以下のものが含まれています。

- disk1 フォルダーには、WebSphere Application Server (WAS ディレクトリー)、 IBM SDK Java[™] Technology Edition for WebSphere バージョン 7.0 (WASJDK7 デ ィレクトリー)、および WebSphere eXtreme Scale (WXS リポジトリー) が含まれ ています。
- disk2 フォルダーには、Decision Server (WDS ディレクトリー)、Profile templates for WebSphere Application Server (OW ディレクトリー)、および Embedded Rules (ER ディレクトリー) が含まれています。
- disk3 フォルダーには、Decision Center (WDC ディレクトリー) が含まれています。

関連概念:

13ページの『ランチパッドによる製品のインストール』

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

38ページの『サイレント・モードでのインストール』

場合によっては、Operational Decision Manager を特別な構成で複数コンピューター にインストールする必要があります。 Installation Manager をサイレント・インスト ール・モードで実行してインストール・プロセスを自動化することによって、製品 のコンポーネントをインストールし、製品を複数のシステムに配布することができ ます。

『ソフトウェア要件の確認』

Operational Decision Manager のインストールを開始する前に、必須ソフトウェアと 環境がインストールされていること、および十分なディスク・スペースがあること を確認してください。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

ソフトウェア要件の確認

Operational Decision Manager のインストールを開始する前に、必須ソフトウェアと 環境がインストールされていること、および十分なディスク・スペースがあること を確認してください。

Operational Decision Manager を使用する前に、以下のプログラムをインストールす る必要があります。これらのプログラムはインストーラーの一部として提供されま す。これらのプログラムがご使用のコンピューターにまだインストールされていな い場合は、ランチパッドを使用してインストールすることができます。

必須ソフトウェア	説明
Installation Manager V1.6.0 以降	Operational Decision Manager パッケージをイ ンストールするには、Installation Manager が 使用されます。
	製品に付属の Installation Manager のバージ ョンは 1.6.2 です。

表 1. Operational Decision Manager のインストールに必須のソフトウェア

必須ソフトウェア	説明
WebSphere Application Server Network	WebSphere Application Server Network
Deployment V8.5.0.2	Deployment が必要になるのは、サンプル・
	サーバーまたはスタンドアロン・サーバーを
	配布する場合のみです。
	WebSphere Application Server Network
	Deployment は、サノノルおよびナュートリ
	アルを美行9る場合や、Event Runtime を1
	ノストールしてイベント・ワインエットを使
	$H g \circ \delta G \cap O U H c d l x g \circ$
	注: Linux システムわよび AIX システムに WebSehere Amplication Server Network
	Deployment & 1.7 b = 1.4 3/2
	It /otc/socurity/limits conf 72/li
	プロセス・山ソース制限を設定する必要があ
	ります。闘くファイルの数に対して値が低す
	ぎると、ファイルを開く際または接続を確立
	する際にエラーが発生することがあります。
	開くファイルの制限を変更するに
	は、/etc/security/limits.conf ファイルを
	編集して、以下の値を追加します。
	hard nofile 100000
	soft nofile 100000
WebSphere eXtreme Scale V8.6.0	WebSphere eXtreme Scale は、 Event
	Runtime を使用する場合にのみ必要です。
	WebSphere eXtreme Scale / L. Event Runtime
	のインストールに使用されます。 WebSphere
	eXtreme Scale (I WebSphere Application
	Server のテイレクトリーにインストールする
	必要があります。

表1. Operational Decision Manager のインストールに必須のソフトウェア (続き)

詳細なシステム要件およびソフトウェア要件については、以下のサポート・ページ を参照してください。

IBM Operational Decision Manager detailed system requirements

関連タスク:

15ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

18ページの『カスタム構成のインストール』

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

インストール・オプション

IBM Operational Decision Manager をインストールする前に、Decision Server および Decision Center を使用する方法、および既存の実動サーバーでこれらの製品を構成するかどうかを検討します。ニーズに応じて選択できるインストール・オプションがいくつかあります。

関連タスク:

15ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

60ページの『製品のアンインストール』

Operational Decision Manager をアンインストールするには、Installation Manager の アンインストール・オプションを使用する必要があります。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

概要

Operational Decision Manager インストーラーは、さまざまなサーバー・トポロジー およびサーバー環境に適合する 2 種類のインストール・オプションを提供します。

以下のインストール・オプションが選択できます。

• サンプル・サーバー

カスタム・インストール

最初のオプションを使用できるのはランチパッドからのみですが、カスタム・イン ストールはランチパッドおよび Installation Manager のいずれを使用しても実行でき ます。

以下の表を使用して、ニーズに最適なインストール・オプションを判別するのに役 立ててください。

表2. インストール・オプション

目標	インストール・オプション
インストール後の構成が不要で完全ですぐに	ランチパッドからのサンプル・サーバー・オ
使える製品をインストールして、製品のテス	プション。
トと評価を行い、サンプルおよびチュートリ	
アルを実行する。	詳しくは、11ページの『標準インストー
	ル』および15ページの『サンブル・サーバ
	一による製品のインストール』を参照してく
	72203.
必要なコンボーネントのみをインストールす	ランチパッドまたは Installation Manager か
る。	らのカスタム・インストール・オプション。
	 詳細け 11ページの『カスタム・インスト
	ール『 18ページの『カスタム構成のイン
	ストール 、および21 ページの 『Installation
	Manager による製品のインストール』を参照
	してください。
	ランチパッドまたは Installation Manager か
	らのカスタム・インストール・オプション。
このインストール・シナリオの場合、製品の	
インストール後に構成が必要です。	詳細は、11ページの『カスタム・インスト
	ール』、18ページの『カスタム構成のイン
	ストール』、および 21 ページの『Installation
	Manager による製品のインストール』を参照
	してください。
Eclipse 環境を拡張する。	ランチパッドまたは Installation Manager か
	らのカスタム・インストール・オプション。
	 詳細け 11ページの『カスタム・インスト
	ール』、18ページの『カスタム構成のイン
	ストール』、および21ページの『Installation
	Manager による製品のインストール』を参照
	してください。
互換性のある IBM 製品にインストールす	ランチパッドまたは Installation Manager か
3.	らのカスタム・インストール・オプション。
	詳細は、11ページの『カスタム・インスト
	ール』、18ページの『カスタム構成のイン
	ストール』、および21ページの『Installation
	Manager による製品のインストール』を参照
	してください。

標準インストール

Operational Decision Manager が容易に使い始められるように、インストーラーに は、WebSphere Application Server で使用するための定義済みの構成とプロファイル が用意されています。

この定義済みのサンプル・サーバー構成と対応するプロファイルは、ランチパッド を使用してインストールすることができます。

このインストール・オプションを選択すると、完全な製品ファミリーが、サンプル とチュートリアルを実行するためのアプリケーションおよびプロジェクトと一緒に インストールされます。また、ユーザーに必要なソフトウェアもインストールされ ます。

サンプル・サーバーは、開発、テスト、およびサンプルやチュートリアルの実行を 行うためのデフォルトのオプションです。 このオプションは実動用ではありませ ん。

サンプル・サーバーは、WebSphere Application Server 上に、サンプルおよびチュートリアルを実行するための配布済みアプリケーションが含まれるプロファイルを定義します。サンプル・サーバーを使用して、Operational Decision Manager のフィーチャーをテストおよび学習できます。このサーバーには、Apache Derby データベースが組み込まれており、WebSphere Application Server のデフォルトのメッセージングがメッセージング・プロバイダーとして含まれています。

サンプル・サーバーでは構成は必要ありません。インストール後に初めてサンプ ル・サーバーを始動したときに、プロファイルが作成されます。

関連タスク:

15 ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』 「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

カスタム・インストール

ランチパッドまたは Installation Manager を使用して Operational Decision Manager のインストールをカスタマイズできます。例えば、Operational Decision Manager コ ンポーネントのサブセットのみをインストールし、それらのコンポーネントを WebSphere Application Server に配布して構成すれば、クラスター化機能を活用でき ます。あるいは、特定のインストール・オプションを選択することができます。

製品の部分によっては、特定のソフトウェアのインストールが必要になる場合もあ ります。必須ソフトウェアがまだインストールされていない場合は、ランチパッド を使用してください。必須ソフトウェアが既にインストールされている場合、また は特定のソフトウェアを必要としない、製品の部分をインストールしたい場合は、 Installation Manager を使用することができます。例えば、Rule Designer のみをイン ストールしたい場合などです。 次の図は、ランチパッドを使用して製品をインストールする経路と、Installation Manager の設定でリポジトリー・ロケーションを追加することによって製品をイン ストールする経路を示しています。



必須のソフトウェアがインストールされている?

実稼働環境で Operational Decision Manager を使用するためには、ご使用のアプリ ケーション・サーバーに対応するアーカイブを配布して構成する必要があります。 カスタム・インストール・オプションを使用してこのアーカイブをインストールす れば、Decision Center、Decision Server Rules、および Decision Server Events を WebSphere Application Server に配布して構成することができます。

Decision Center および Decision Server Rules の場合のみ、 Apache Tomcat、JBoss Application Server、Oracle WebLogic Server、または Java SE など、他のサポートされるアプリケーション・サーバー上にもアプリケーションをインストールすることができます。

インストールが完了したら、『構成』に進んで、ご使用のアプリケーション・サー バー用に Operational Decision Manager を構成します。

関連タスク:

18ページの『カスタム構成のインストール』

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

ランチパッドによる製品のインストール

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

関連タスク:

15 ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』 「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

18ページの『カスタム構成のインストール』

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

60ページの『製品のアンインストール』

Operational Decision Manager をアンインストールするには、Installation Manager の アンインストール・オプションを使用する必要があります。

関連情報:

21ページの『Installation Manager による製品のインストール』

必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

ランチパッドの開始

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインストールする際に役立つランチパッドが同梱されています。

このタスクについて

各インストール・ディスクにはランチパッド実行可能ファイルが含まれています。 ランチパッドは任意のディスクから開始できます。

ランチパッドの実行には Web ブラウザー (Firefox または Internet Explorer のいず れか) が必要です。

ユーザー特権は、コンピューターへのログインに使用したアカウントによって異な ります。しかし、ランチパッドのカスタム・インストーラーを使用して製品をイン ストールする場合、複数ユーザー向けに共有ロケーションにインストールすること も、特定ユーザー向けに単一ロケーションにインストールすることも選択できま す。

Operational Decision Manager は、通常のユーザー、あるいは管理者のいずれかでイ ンストールできます。 Windows 7 では、 Program Files ディレクトリーおよび Program Files (x86) ディレクトリーは保護されています。 したがって、製品を管 理者としてインストールしていない場合、特定のプログラムを実行するのに問題が 発生することがあります。この問題を回避するには、製品を Program Files や Program Files (x86) 以外のディレクトリーにインストールします。

Windows で管理者として製品をインストールする場合、インストールに必要なユー ザー特権は Windows のバージョンによって異なります。

 Windows 7 の場合: IBM Installation Manager および他の製品のインストールや 更新には、管理者特権のあるアカウントでログインする必要があります。 プログ ラム・ファイルまたはショートカットを右クリックして「管理者として実行」を 選択し、インストーラーを管理者として実行します。

注: お使いのマシンに既にインストールされているバージョンの Installation Manager を使用して Operational Decision Manager コンポーネントをインストー ルする場合は、「コントロール パネル」の「ユーザー・アカウント制御」の設 定が最も低い値に設定されていないことを確認してください。この値が最小に設 定されていると、ランチパッドは自動的に管理者モードで起動されて、新しいバ ージョンの Installation Manager を、既にインストールされているものに加えてイ ンストールします。

その他のサポートされている Windows バージョンの場合:管理者としてインストールしたい場合には、管理者グループに属するユーザー ID が必要です。

手順

ランチパッドを開始するには、以下のいずれかの実行可能ファイルを実行します。

• Windows では、launchpad.exe または launchpad64.exe (64 ビット・システムの 場合) を実行します。

launchpad.exe ファイルおよび launchpad64.exe ファイルは、ランチパッド自体 が実行されるビット・サイズを定義します。このどちらのファイルを選択するか は、インストールする Operational Decision Manager が 32 ビットか 64 ビット かを決定するのではなく、ランチパッドの実行が 32 ビット・モードか 64 ビッ ト・モードかを決定するものです。 カスタム・インストール・モードで、インストールする WebSphere Application Server を 32 ビットにするか 64 ビットにするかを選択できます。標準モードで は、インストールはバックグラウンドで実行され、オペレーティング・システム に対応するバージョンが選択されます。

注: Windows 7 の場合は、ファイルを右クリックして、「管理者として実行」を 選択します。

• Linux では、./launchpad.sh を実行します。

次のタスク

実行するインストールのタイプ (サンプル・サーバー、スタンドアロン・サーバ ー、またはカスタム・インストール)を選択します。

関連タスク:

『サンプル・サーバーによる製品のインストール』

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

18ページの『カスタム構成のインストール』

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

サンプル・サーバーによる製品のインストール

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

このタスクについて

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは以下の Operational Decision Manager コンポーネントをインストールします。

- IBM Decision Center
- IBM Decision Server

チュートリアル、サンプル・プロジェクト、および以下の必須ソフトウェアもイン ストールします。

- · WebSphere Application Server Network Deployment
- WebSphere eXtreme Scale

IBM Decision Center のライセンスがない場合でも、このコンポーネントは使用できます。その場合、使用はサンプルおよびチュートリアルの実行に制限されます。

手順

サンプル・サーバーを使用して IBM Operational Decision Manager をインストール するには、次のようにします。

- 1. ランチパッドを開始します。
- 2. 「ようこそ」ページで、「**サンプル・サーバー**」を選択します。
- 3. 製品のインストール先ディレクトリーを指定します。

Windows 7 では、ランチパッドを管理者として実行すると、提示されるインストール・ディレクトリーは以下になります。C:¥Program Files (x86)¥IBM¥0DM851。

ランチパッドをユーザー・モードで実行すると、提示されるインストール・ディレクトリーは以下になります。C:¥Users¥IBM ADMIN¥IBM¥0DM851。

「参照」をクリックすれば、デフォルトで提示される以外のロケーションを指 定することができます。ただし、Windows7 では、 Program Files ディレクト リーと Program Files (x86) ディレクトリーは保護されているので注意してく ださい。管理者として製品をインストールしないと、特定のプログラムを実行 する際に問題が発生する場合があります。この問題を回避するには、製品を Program Files や Program Files (x86) 以外のディレクトリーにインストール します。

- WebSphere Application Server 管理コンソール、およびイベント・ウィジェット などの他のアプリケーションにログインするためのユーザー名とパスワードを 入力します。例:
 - ユーザー名: odmadmin
 - パスワード: odmadmin

ユーザー ID とパスワードには、空白文字を使用できません。

重要:

セキュリティー上の理由から、インストールの完了後に、パスワードを変更 し、ランチパッドによって作成された一時応答ファイルを削除する必要があり ます。これらのファイルは、インストール・プロセス中に以下のディレクトリ ー内に生成されます。

- ・ Windows の場合: %TEMP%¥IBM_LaunchPad_<InstallType>_<TimeStamp>
- Unix の場合: /tmp/IBM_LaunchPad_<InstallType>_<TimeStamp>
- 5. Operational Decision Manager Express ライセンスがある場合、対応するオプションを選択します。

Operational Decision Manager Express から Operational Decision Manager にア ップグレードする場合は、Express バージョンを完全にコンピューターからアン インストールしてから、ランチパッドまたは Installation Manager を使用して再 インストールする必要があります。

- 6. 「**次へ**」をクリックします。
- 7. ご使用条件および注意事項を確認して、条件に同意するためのチェック・ボッ クスを選択します。

8. ページの下部で、「**ソフトウェアのインストール**」をクリックします。

インストール時に、インストーラーから Installation Manager およびその他のイ ンストール・プログラムを実行するか、確認を求めるプロンプトが出されま す。「**はい**」をクリックして同意します。

インストールはバックグラウンドで実行されます。進行状況表示バーに 100% 完了と表示されても、ランチパッドを閉じないでください。次のメッセージが 表示されるまで待ってください。インストールが正常に完了しました

- 9. 「閉じる」をクリックしてから、「終了」をクリックします。
- 10. 「**OK**」をクリックし、ランチパッドの終了を確認します。

完了前にインストールをキャンセルした場合、コンピューターに既にコピーさ れたファイルとフォルダーは削除されません。ランチパッドを再度実行する前 に、ランチパッドが既にインストールした製品を Installation Manager でアンイ ンストールし、残りのファイルを手動で削除する必要があります。詳細は、60 ページの『製品のアンインストール』を参照してください。

タスクの結果

インストールが完了すると、以下のエレメントがご使用のコンピューターにインス トールされます。

- ・ Decision Server Rules: Rule Designer および Rule Execution Server
- ・ Decision Server Events: Event Designer および the event runtime
- ・ Decision Center: Decision Center Business Console および Decision Center Enterprise Console

デフォルトでは、以下のディレクトリーにインストールされます。

- Operational Decision Manager: <*IBM_InstallDir*>/0DM851/0DM。 <*IBM_InstallDir*> は IBM インストール・ディレクトリーを指します。
- WebSphere eXtreme Scale および WebSphere Application Server:
 <IBM_InstallDir>/0DM851/WAS/AppServer。ここで <IBM_InstallDir> は IBM イン ストール・ディレクトリーを指します。

次のタスク

「スタート」メニュー・ショートカットを使用してサンプル・サーバーを始動しま す。WebSphere Application Server Network Deployment 上で、提供されているサン プルとチュートリアルを実行するためのプロファイルが構成されます。詳細は、58 ページの『サンプル・サーバーの始動』を参照してください。

関連概念:

57ページの『次の作業』

選択したインストール・オプションによっては、インストール後に実行する構成作 業が生じる場合があります。

9ページの『インストール・オプション』

IBM Operational Decision Manager をインストールする前に、Decision Server および Decision Center を使用する方法、および既存の実動サーバーでこれらの製品を構成するかどうかを検討します。ニーズに応じて選択できるインストール・オプションがいくつかあります。

13ページの『ランチパッドによる製品のインストール』

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

7ページの『ソフトウェア要件の確認』

Operational Decision Manager のインストールを開始する前に、必須ソフトウェアと 環境がインストールされていること、および十分なディスク・スペースがあること を確認してください。

11ページの『標準インストール』

Operational Decision Manager が容易に使い始められるように、インストーラーには、WebSphere Application Server で使用するための定義済みの構成とプロファイルが用意されています。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

カスタム構成のインストール

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

このタスクについて

「カスタム・インストール」オプションは Installation Manager を開始して、 Decision Center、Decision Server、Profile templates for WebSphere Application Server、および Business Rules Embedded をインストールします。

適用したいユーザー特権を指示することができます。例えば、複数のユーザー用の 共有ロケーションに製品をインストールするように選択できます。

ランチパッドを使用して、必須ソフトウェアの正しいバージョンがインストールされていることを確認してください。必須ソフトウェアがインストールされていない

場合は、ランチパッドにあるリンクを使用してインストールしてください。

手順

カスタム・インストールを実行するには、次のようにします。

- 1. ランチパッドを開始します。
- 2. 「ようこそ」ページで、「カスタム・インストール」を選択します。
- 3. 必須ソフトウェアおよび Operational Decision Manager のインストールのための ユーザー特権を指定します。
 - 管理者または root ユーザーで管理ユーザーとしてインストールするには、デ フォルトのチェック・ボックス「複数のユーザーの共有ロケーションにインス トールします」を選択したままにしておきます。
 - 管理者以外の場合、または独自のユーザー名でインストールする場合は、チェック・ボックス「複数のユーザーの共有ロケーションにインストールします」
 をクリアします。

注: WebSphere Application Server および Operational Decision Manager は、同 じユーザー特権でインストールする必要があります。 詳細は、24 ページの『ユ ーザー特権』を参照してください。

- Installation Manager がインストールされていない場合は、「IBM Installation Manager のインストール」をクリックし、インストール・ウィザードのステッ プに従います。
- 5. 「**IBM WebSphere Application Server Network Deployment のインストール**」 をクリックして、このソフトウェアのインストールを実行します。
 - a. インストール・ウィザードのステップに従います。

重要: WebSphere Application Server フィーチャー・ツリーで、オプション 「サンプル・アプリケーション」を選択しないでください。 これを選択する と、Event Runtime を正しく実行できません。

b. インストールの最後に、プロファイル管理ツールを開かないでください。

プロファイルはまだ作成されていません。

デフォルトでは、WebSphere Application Server は *<IBM_InstallDir>/* WebSphere/AppServer にインストールされます。ここで、*<IBM_InstallDir>* は IBM インストール・ディレクトリーを指します。

- 6. 「WebSphere eXtreme Scale のインストール」をクリックし、インストール・ ウィザードを使用して eXtreme Scale のサポートされているバージョンをインス トールします。
 - a. インストール・ウィザードのステップに従います。
 - b. インストール・ディレクトリーを示すプロンプトが出たら、パスが
 WebSphere Application Server ディレクトリーと一致していることを確認します。例えば、C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer です。 WebSphere
 eXtreme Scale は、WebSphere Application Server をインストールしたのと同
 Uディレクトリーにインストールする必要があります。

WebSphere Application Server のバージョンに関する警告が表示されても、その警告は無視し、インストールを継続してかまいません。

- c. インストールの最後に、「プロファイル管理ツール・コンソールの起動」を クリアし、「終了」をクリックします。
- 必須ソフトウェアのインストールが完了したら、各コンポーネントを個別にイン ストールすることも、すべてのコンポーネントを1回の操作でインストールす ることもできます。
 - 対応するコンポーネントのみをインストールする場合は、以下のオプションの
 1 つをクリックしてください。

Decision Center

ビジネス・ユーザーがビジネス・ルールおよびイベント・ルールを作 成、管理、およびテストするための環境。

Business Rules Embedded

アプリケーションにビジネス・ルール機能を追加するための開発環 境。開発環境としてこのコンポーネントおよび Eclipse 3.6 を使用す るには、IBM Decision Server ライセンスが必要です。

Decision Server

ビジネス・ルールおよびビジネス・イベントの開発およびランタイム 環境です。

Profile templates for WebSphere Application Server

Decision Center および Decision Server を WebSphere Application Server に配布するためのイベントおよびルール・テンプレート・プロ ファイルとランタイム。このコンポーネントを使用するには、IBM Decision Server ライセンスが必要です。

 この 4 つのコンポーネントを 1 回でインストールする場合は 「Decision Manager のインストール」をクリックしてください。

Installation Manager が起動します。詳細は、 26 ページの『Installation Manager の実行』を参照してください。

関連概念:

57ページの『次の作業』

選択したインストール・オプションによっては、インストール後に実行する構成作 業が生じる場合があります。

11ページの『カスタム・インストール』

ランチパッドまたは Installation Manager を使用して Operational Decision Manager のインストールをカスタマイズできます。例えば、Operational Decision Manager コンポーネントのサブセットのみをインストールし、それらのコンポーネントを

WebSphere Application Server に配布して構成すれば、クラスター化機能を活用できます。あるいは、特定のインストール・オプションを選択することができます。

13ページの『ランチパッドによる製品のインストール』

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

7ページの『ソフトウェア要件の確認』

Operational Decision Manager のインストールを開始する前に、必須ソフトウェアと 環境がインストールされていること、および十分なディスク・スペースがあること を確認してください。

関連情報:

『Installation Manager による製品のインストール』

必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

Installation Manager による製品のインストール

必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

Installation Manager を使用して、Operational Decision Manager のサブセットのみを インストールすることができます。また、特定の構成に合わせてインストールをカ スタマイズすることもできます。例えば、以下のことを行うことができます。

- 既存の Eclipse 環境の拡張
- 互換性のある別の IBM 製品に Operational Decision Manager をインストール
- WebSphere Application Server 以外のアプリケーション・サーバーを構成するためのアーカイブのインストール
- ローカル・ヘルプ・システムのインストール

インストールを続行する前に、インストールしたい製品のライセンスを所有してい ることを確認してください。

IBM Operational Decision Manager は、インストール可能ユニットに対応する以下の コンポーネントに分割されます。

IBM Decision Center

ビジネス・ユーザーがビジネス・ルールおよびイベント・ルールを作成、管理、およびテストするための環境。

IBM Decision Server

ビジネス・ルールおよびビジネス・イベントの開発およびランタイム環境です。

Profile templates for WebSphere Application Server

Decision Center および Decision Server を WebSphere Application Server に 配布するためのイベントおよびルール・テンプレート・プロファイルとラン タイム。このコンポーネントを使用するには、IBM Decision Server ライセ ンスが必要です。

Business Rules Embedded

アプリケーションにビジネス・ルール機能を追加するための開発環境。開発 環境としてこのコンポーネントおよび Eclipse 3.6 を使用するには、IBM Decision Server ライセンスが必要です。

Operational Decision Manager コンポーネントをインストールするには、Installation Manager は対応するリポジトリーにアクセスする必要があります。製品ランチパッドを使用した場合、これらのリポジトリーのパスは、Installation Manager 設定で自動的に設定されます。ランチパッドを使用しない場合は、Installation Manager でリポジトリー URL を指定する必要があります。

Installation Manager を使用した製品のインストールが完了した後に、Decision Center および Decision Server を構成して Operational Decision Manager を実動で使用でき るようにする必要があります。

関連概念:

9ページの『インストール・オプション』

IBM Operational Decision Manager をインストールする前に、Decision Server および Decision Center を使用する方法、および既存の実動サーバーでこれらの製品を構成するかどうかを検討します。ニーズに応じて選択できるインストール・オプションがいくつかあります。

13ページの『ランチパッドによる製品のインストール』

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

7ページの『ソフトウェア要件の確認』

Operational Decision Manager のインストールを開始する前に、必須ソフトウェアと 環境がインストールされていること、および十分なディスク・スペースがあること を確認してください。

11ページの『カスタム・インストール』

ランチパッドまたは Installation Manager を使用して Operational Decision Manager のインストールをカスタマイズできます。例えば、Operational Decision Manager コ ンポーネントのサブセットのみをインストールし、それらのコンポーネントを WebSphere Application Server に配布して構成すれば、クラスター化機能を活用でき ます。あるいは、特定のインストール・オプションを選択することができます。

59ページの『別のバージョンへのアップグレード』

製品の別のバージョンへのアップグレード、あるいはフィーチャーや機能の追加や 削除の前に、予備ステップを実行する必要があります。

関連タスク:

15ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』

「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

18ページの『カスタム構成のインストール』

必須ソフトウェアをインストールし、必要な Operational Decision Manager コンポ ーネントおよび特定のフィーチャーを選択する場合は、「カスタム・インストー ル」オプションを使用します。このオプションでは、既存の Eclipse 環境製品や IBM 製品へのインストールといった、より具体的なインストール構成も可能です。 Installation Manager を直接使用してカスタム・インストールを実行することもでき ます。

60ページの『製品のアンインストール』

Operational Decision Manager をアンインストールするには、Installation Manager の アンインストール・オプションを使用する必要があります。

Installation Manager の概要

IBM Installation Manager を使用して、IBM 製品をインストールおよび保守します。

Installation Manager を使用するには、インストールを実行するユーザー特権を選択 し、各ロールが関わる内容を理解する必要があります。また、パッケージ・グルー プ、共有ディレクトリー、Eclipse 言語などのいくつかの概念について知っておく必 要もあります。

ユーザー特権

Operational Decision Manager は、管理ユーザー (root) または非管理ユーザー (非 root) としてインストールできます。

必須ソフトウェアのインストールには同じユーザーを使用する必要があります。例 えば、Operational Decision Manager および WebSphere Application Server は同じユ ーザーを使用してインストールする必要があります。

Installation Manager のガイドラインについて詳しくは、Installation Manager 資料の 『グループ・ロードマップおよびユーザー・インターフェース』および『管理者、 非管理者、またはグループとしてのインストール』を参照してください。

管理者ユーザー

管理者ユーザー (root) で製品をコンピューターにする場合、Installation Manager デ ィレクトリー内の install 実行可能ファイルを実行します。

非管理者ユーザー

特定のユーザーで製品をコンピューターにインストールする場合、Installation Manager ディレクトリー内の userinst 実行可能ファイルを実行します。

ユーザーのグループで製品をコンピューターにインストールする場合、groupinst 実行可能ファイルを実行します。グループ・モードを使用して Installation Manager をインストールする場合、あるアカウントを使用して Installation Manager をインス トールし、同じグループに属する別のアカウントを使用してオファリングをインス トールできます。

注:

グループ・モードは Windows ではサポートされていません。

詳しくは、Installation Manager 資料の『インストール・コマンド』を参照してください。

パッケージ・グループおよび共有ディレクトリー

Installation Manager は、Operational Decision Manager を常にパッケージ・グループ にインストールします。このグループは、複数のパッケージを 1 つの管理可能な場 所にグループ化するために使用されます。

Installation Manager は、デフォルトの 『パッケージ・グループ』および 25 ページ の『共有リソース・ディレクトリー』を指定します。

パッケージ・グループ

パッケージ・グループとは、互換性のあるパッケージがユーザー・インターフェー ス、ワークベンチなどの共通コンポーネントを共有するディレクトリーです。 パッケージ・グループを作成したり、既存の互換性のあるパッケージ・グループに パッケージをインストールしたりすることができます。 パッケージ・グループを共 有できないパッケージもあります。この場合、既存のパッケージ・グループを使用 するためのオプションは使用不可になります。

IBM Integration Designer、Rational[®] Application Developer、 Rational Software Architect など、互換性のある製品のサポートされているバージョンがインストール されていて、Rule Designer および Event Designer フィーチャーでそれを拡張した い場合は、既存のパッケージ・グループに製品をインストールすることをお勧めし ます。詳細は、29 ページの『互換性のある IBM 製品への Operational Decision Manager のインストール』を参照してください。

複数のパッケージを同時にインストールすると、パッケージはすべて同じパッケー ジ・グループにインストールされます。 パッケージ・グループを作成した後で、イ ンストール・ディレクトリーを変更することはできません。インストール・ディレ クトリーには、Operational Decision Manager に固有のファイルおよびリソースが含 まれています。

共有リソース・ディレクトリー

共有リソース・ディレクトリーとは、Eclipse プラグインおよびその他のファイルが 格納されるディレクトリーで、ここにある Eclipse プラグインやファイルは 1 つ以 上の製品パッケージ・グループで使用することができます。 共有リソース・ディレ クトリーを指定できるのは、パッケージの初回インストール時のみです。 共有リソ ース・ディレクトリーの名前は、最初にインストールした製品によって異なりま す。

すべてのパッケージをアンインストールするまで、ディレクトリー・ロケーション を変更することはできません。

重要: Installation Manager は、共有リソース・ディレクトリーの内容を管理しま す。 このディレクトリーのファイルは編集または変更してはいけません。

関連タスク:

29 ページの『互換性のある IBM 製品への Operational Decision Manager のインストール』

Operational Decision Manager を互換性のある IBM 製品パッケージ・グループにインストールして、機能および共通ユーザー・インターフェースを共有できます。

言語

インストール時に、インストールする言語を選択できます。 デフォルトでは英語が 選択されます。英語は常にインストールされます。

言語の選択は、Eclipse フィーチャーにのみ適用されます。選択した言語ごとに言語 パックがインストールされるため、各言語のロケールで Eclipse を開始できます。

既存の Eclipse を拡張する場合は、言語パックが既にインストールされている言語 を選択する必要があります。 既存の Eclipse でまだインストールされていない言語 を選択すると、エラーが発生することがあります。 この問題を解決するには、 Eclipse にインストールされていない言語をクリアします。 Rule Designer ユーザー・インターフェースは、サポートされているすべてのロケー ルでインストールされます。 したがって、特定のロケール (例えば、フランス語) をインストールしていない場合でも、このロケールで Eclipse を開始すると、 Eclipse で Rule Designer のビューおよびエディターはこの言語 (フランス語) で表 示されます。

Installation Manager 設定のセットアップ

ランチパッドを使用せずに、Installation Manager から直接製品をインストールする 場合は、設定でインストーラーのディレクトリーを指定する必要があります。

手順

- 1. Windows の「**スタート**」メニューまたはコマンド・ラインから Installation Manager を始動します。
- 2. 「**ファイル**」 > 「設定」をクリックし、以下のようにリポジトリー・ロケーションを指定します。
 - Decision Center: <extractionDir>/disk3/WDC
 - Decision Server: <extractionDir>/disk2/WDS
 - Profile templates for WebSphere Application Server: <extractionDir>/disk2/OW
 - Business Rules Embedded: <extractionDir>/disk2/ER

Installation Manager は、指定したリポジトリー・ロケーションから製品パッケージを取得します。

リポジトリーのロケーションの設定方法について詳しくは、Installation Manager インフォメーション・センターの『リポジトリーの設定』を参照してください。

関連タスク:

『Installation Manager の実行』

Installation Manager を使用して、1 つ以上の Operational Decision Manager コンポ ーネントをコンピューターにインストールします。これは直接開始することができ ます。あるいは、まず必須ソフトウェアをインストールする必要がある場合は、ラ ンチパッドを使用することができます。

Installation Manager の実行

Installation Manager を使用して、1 つ以上の Operational Decision Manager コンポ ーネントをコンピューターにインストールします。これは直接開始することができ ます。あるいは、まず必須ソフトウェアをインストールする必要がある場合は、ラ ンチパッドを使用することができます。

このタスクについて

ランチパッドの「カスタム・インストール」オプションから製品をインストールす る場合、各種 Operational Decision Manager コンポーネントのリポジトリー・ロケ ーションのパスは、Installation Manager 設定で自動的に設定されます。

Installation Manager を直接使用する場合は、必ず、リポジトリー・ロケーションを 指定してください。詳細は、『Installation Manager 設定のセットアップ』を参照し てください。

手順

Installation Manager を使用して Operational Decision Manager をインストールする には、以下のようにします。

 「インストール・パッケージ」ページで、Decision Center Decision Server、Business Rules Embedded、および Profile templates for WebSphere Application Server を選択してから、「次へ」をクリックします。

必要に応じて、パッケージのいずれか、またはすべてを同じコンピューターに インストールすることができます。各パッケージに含まれているフィーチャー について詳しくは、31ページの『インストールするフィーチャーの選択』を参 照してください。

注: Decision Center のサンプルを実行する場合、および「入門」チュートリア ルのシナリオを完全に実行する場合は、Decision Center と Decision Serverの両 方をインストールしておく必要があります。

- 2. 選択したパッケージのご使用条件を確認し、「**ライセンスの条項に同意しま** す」をクリックしてから、「次へ」をクリックします。
- オプション:「次へ」をクリックし、共有リソース・ディレクトリーのデフォルト・パスを受け入れます。Operational Decision Manager が、Installation Manager でインストールする最初の製品の場合は、このステップを実行します。

詳しくは、24ページの『パッケージ・グループおよび共有ディレクトリー』を 参照してください。

- 4. パッケージ・グループを選択します。
 - a. 「新規パッケージ・グループの作成」を選択して Operational Decision Manager の新しいパッケージ・グループを作成します。

デフォルトのパッケージ・グループは ODM851 で、その名前は IBM Operational Decision Manager です。

デフォルトのインストール・ディレクトリーは C:¥Program Files¥IBM¥0DM851 です。 Windows7 では、Program Files ディレクトリーお よび Program Files (x86) ディレクトリーは保護されています。管理者とし て製品をインストールしないと、特定のプログラムを実行する際に問題が発 生する場合があります。この問題を回避するには、製品を Program Files お よび Program Files (x86) 以外のディレクトリーにインストールしてくださ い。

b. 「次へ」をクリックして先に進みます。

詳しくは、24ページの『パッケージ・グループおよび共有ディレクトリー』および29ページの『互換性のある IBM 製品への Operational Decision Manager のインストール』を参照してください。

5. Eclipse の新しいインスタンスをインストールするには、このページを空にした まま、ディレクトリーを選択せずに、「次へ」をクリックして続行します。

Installation Manager はパッケージ・グループのディレクトリーのルートに、 Eclipse の新しいインスタンスをインストールします。 Eclipse が既にインストールされていて、Eclipse のご自分のインストールを使用したい場合は、30ページの『既存の Eclipse 環境への製品のインストール』を参照してください。

 「翻訳 (Translations)」ページで、このパッケージをインストールする場合の言 語を選択し、「次へ」をクリックします。

詳細は、25ページの『言語』を参照してください。

7. インストールする製品フィーチャーを選択し、「次へ」をクリックします。

デフォルトでは、フィーチャーのセットが既に選択されています。フィーチャーについて詳しくは、31ページの『インストールするフィーチャーの選択』を参照してください。

 「Application Server のロケーション」を選択し、アプリケーションの配布先 となる WebSphere Application Server のインストール済み環境を参照し、「次 へ」をクリックします。例えば、<IBM_InstallDir>/WebSphere/AppServer と入 力します。

デフォルトでは、Operational Decision Manager では JDK7 がサポートされま す。JDK6 を実行している既存の WebSphere Application Server がある場合 は、インストール・オプションの IBM WebSphere SDK Java Technology Edition バージョン 7.0.1 を使用して、JDK バージョンをアップグレードする必 要があります。

- 9. 「サーバーのセキュリティー」を選択し、WebSphere Application Server でのサ ンプル・サーバー・プロファイルのユーザー ID とパスワードを入力してか ら、「次へ」をクリックします。 例:
 - ユーザー ID: odmadmin
 - パスワード: odmadmin

ユーザー ID とパスワードには、空白文字を使用できません。

ユーザー ID およびパスワードを使用して WebSphere Application Server 管理 コンソール、イベント・ウィジェット、およびイベント管理コンソールに接続 します。

 オプション:対応するライセンスがある場合は、「IBM Operational Decision Manager Express」を選択し、「インストール」オプションにチェック・マーク を付けます。

Operational Decision Manager Express から Operational Decision Manager にア ップグレードする場合は、「**パッケージの変更**」オプションを使用できませ ん。Express バージョンを完全にコンピューターからアンインストールしてか ら、ランチパッドまたは Installation Manager を使用して再インストールする必 要があります。

- 11. パッケージをインストールする前に、選択したフィーチャーを「概要」ページ で確認してから、「**インストール**」をクリックします。
- 12. インストールが完了したら、「終了」をクリックします。

タスクの結果

製品が、指定したディレクトリーにインストールされます。デフォルトのインスト ール・ディレクトリーは <*IBM_InstallDir*>/0DM851 です。なお <*IBM_InstallDir*> は、IBM インストール・ディレクトリーを指します。

インストールされた製品とフィーチャーは、Installation Manager で選択した内容に よって異なります。45ページの『インストールの確認』を参照してください。

次のタスク

次のステップおよびインストールの開始方法を調べるには、 57 ページの『次の作 業』を参照してください。

関連概念:

56ページの『インストールのトラブルシューティング』 製品のインストールで問題が発生した場合は、インストール・ログ、または制限事 項や既知の問題に関する技術情報を確認してください。

互換性のある IBM 製品への Operational Decision Manager の インストール

Operational Decision Manager を互換性のある IBM 製品パッケージ・グループにインストールして、機能および共通ユーザー・インターフェースを共有できます。

このタスクについて

Operational Decision Manager は、次のいずれかの製品のパッケージ・グループにイ ンストールできます。

- IBM Integration Designer
- Rational Application Developer
- Rational Developer for z (RDz)
- Rational Software Architect

インストールを開始する前に、これらの製品のリポジトリーのロケーションが Installation Manager の設定で選択されていないことを確認してください。

以下のサポート・ページにアクセスして、サポートされるバージョンを確認しま す。

· IBM Operational Decision Manager detailed system requirements

手順

1. Installation Manager でパッケージ・グループを選択するようプロンプトが出され たら、「**既存のパッケージ・グループの使用**」を選択します。

Installation Manager に、使用可能なパッケージ・グループのリストが表示されます。 互換性のないパッケージ・グループは使用不可です。

2. 宛先パッケージ・グループを選択します。

インストール・ディレクトリーには、選択した製品へのパスが自動的に入力され ます。 3. インストールを続行します。

関連概念:

24 ページの『パッケージ・グループおよび共有ディレクトリー』 Installation Manager は、Operational Decision Manager を常にパッケージ・グループ にインストールします。このグループは、複数のパッケージを 1 つの管理可能な場 所にグループ化するために使用されます。

既存の Eclipse 環境への製品のインストール

デフォルトでは、Installation Manager は Eclipse の新しいインスタンス (バージョン 3.6.2.4) をインストールします。ただし、サポートされるバージョンの Eclipse が既にある場合は、それを拡張することを選択できます。

必要なプラグインおよびパッチ・レベルのインストール

既存の Eclipse 環境に製品をインストールする前に、必要なプラグインが含まれて いること、および現在のパッチ・レベルがインストールされていることを確認しま す。

始める前に

Rule Designer では、以下の最新機能が含まれた Eclipse SDK 3.6 が必要です。

- PDE 3.6
- Graphical Editing Framework (GEF) 3.6
- Eclipse Modeling Framework (EMF) 2.6
- Business Intelligence and Reporting Tools (BIRT) 2.6
- Data Tools Platform (DTP) 1.8
- Web Tools Platform (WTP) 3.2
- XSD 2.6

これらのプラグインは、依存関係として自動的に追加されます。

また、必ず、適切なパッチ・レベルをインストールしてください。適切なレベルの パッチの入手について詳しくは、技術情報『Operational Decision Manager V8.5 Known Limitations』を参照してください。

手順

- 1. Eclipse を開始し、「ヘルプ」 > 「更新の検査」をクリックします。
- 2. 「**次へ**」をクリックします。
- 3. 更新する項目を確認して、「次へ」をクリックします。
- 4. ライセンス条項を確認して、「ライセンスの条項に同意します」を選択します。
- 5. 「**終了**」をクリックして必要なコンポーネントをインストールします。
- 6. Eclipse を再始動するようプロンプトが出されたら、「**すぐに再始動**」をクリックします。

既存の Eclipse 環境の拡張

必要なプラグインがインストールされている場合、現在の Eclipse 環境を拡張できます。

始める前に

拡張する Eclipse インスタンスには、初期化 (.ini) ファイルが含まれている必要が あります。そのようなファイルがない場合は、Eclipse .exe ファイルと同じフォル ダーにそのファイルを作成する必要があります。.ini ファイルは Eclipse 実行可能 ファイルと同じ名前でなければなりません。 例えば、eclipse.exe や eclipse.ini などです。

このタスクについて

パッケージ・ファイルは、選択したパッケージ・グループ・ディレクトリーにイン ストールされますが、パッケージ機能は Eclipse で使用可能です。

手順

- Installation Manager で Eclipse を定義するようプロンプトが出されたら、「既存 の Eclipse の拡張」チェック・ボックスを選択します。
- 2. 互換性のある Eclipse IDE インストールを参照します。
- 3. インストールを続行します。

インストールするフィーチャーの選択

Installation Manager では、インストールする、各 Operational Decision Manager コ ンポーネント内のフィーチャーを選択できます。

デフォルトの一連のフィーチャーが事前に選択されていますが、必要に応じてフィ ーチャーを追加または削除できます。インストール可能なコンポーネントおよびフ ィーチャーについて詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- 『Decision Center のフィーチャー』
- 34 ページの『Decision Server のフィーチャー』
- 38 ページの『Profile templates for WebSphere Application Server』
- 38 ページの『Business Rules Embedded』

フィーチャー間に依存関係が存在する場合は、Installation Manager によって自動的 に適用され、ユーザーがこれらの依存関係をクリアしないようにします。

パッケージのインストールを終了した後に、Installation Manager で「パッケージの 変更」ウィザードを使用して、製品にフィーチャーを追加したり、製品からフィー チャーを削除したりできます。

Decision Center のフィーチャー

次の表に、IBM Decision Center コンポーネントで選択できるフィーチャーを示します。

表 3. Decision Center のフィーチャー

フィーチャー	説明
Decision Center	ビジネス・ユーザーがビジネス・ルールとイ ベント・ルールの作成、管理、およびテスト を行うための環境です。 ビジネス・ルール とイベント・ルールを格納するリポジトリ ー、およびビジネス・ユーザーが意思決定を 管理するための Web インターフェース (Decision Center Business Console および Decision Center Enterprise Console) が含まれ ています。
	デフォルトでは、Decision Center は、 WebSphere Application Server 上のサンプ ル・サーバー・プロファイル上にインストー ルされます。 製品のインストールを完了し た後は、Decision Center を別の WebSphere Application Server プロファイルで構成と配布 を行ったり、他のサポートされているアプリ ケーション・サーバーにインストールしたり することもできます。しかし、Decision Center Business Console は、WebSphere Application Server V8.0 でのみサポートされ ています。
Decision Center: その他のアプリケーショ ン・サーバー用のインストール・アーティフ ァクト > Decision Center for Tomcat	Tomcat に Decision Center を配布して構成す るためのアーカイブを提供します。 このア ーカイブは <installdir>/teamserver/ applicationservers/tomcat にコピーされま す。</installdir>
Decision Center: その他のアプリケーショ ン・サーバー用のインストール・アーティフ ァクト > Decision Center for JBoss	詳しくは、『構成』を参照してください。 JBoss に Decision Center を配布して構成す るためのアーカイブを提供します。 このア ーカイブは <installdir>/teamserver/ applicationservers/JBoss にコピーされま す。 詳しくは、『構成』を参照してください。</installdir>
Decision Center: その他のアプリケーショ ン・サーバー用のインストール・アーティフ ァクト > Decision Center for WebLogic Server	WebLogic Server に Decision Center を配布 して構成するためのアーカイブを提供しま す。このアーカイブは <installdir>/ teamserver/applicationservers/WebLogic にコピーされます。 詳しくは、『構成』を参照してください。</installdir>
表 3. Decision Center のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明
Decision Center > Decision Center のイベン ト・ウィジェット	イベント取り込みウィジェットとイベント再 生ウィジェットを使用して、実動システムの イベントを取り込み、一連のイベントを通常 はテスト・システムで再生することができま す。
	イベントのグラフ作成ウィジェットには、イ ベント・グラフ・マネージャー・ウィジェッ ト (グラフの作成および編集を行う)、イベン ト・グラフ・ウィジェット (グラフだけでな く、イベント、アクション、およびフィルタ ーの履歴を表示するリアルタイム・グラフも 表示する) が含まれています。
	イベント・テスター・ウィジェットでは、ビ ジネス・プロセスでイベント・ロジックをテ ストすることができます。このウィジェット はテストを対象としているため、テスト・イ ンストールでのみ使用してください。 実動 インストールでは使用しないでください。パ フォーマンスに影響することがあります。
	詳しくは、『グラフ・ウィジェットを使用し たビジネス・イベント処理のモニター』を参 照してください。
Rule Solutions for Office (Windows の場合のみ)	Rule Solutions for Office を使用することで、 ビジネス・ユーザーは Microsoft Word また は Excel でビジネス・ルールの作成および編 集を実行できます。
	このオプションでは、Rule Solutions for Office のインストーラーがインストール・デ ィレクトリーにコピーされます。 インスト ーラーの実行可能ファイルのコピー先は < <i>InstallDir</i> >/Rule Solutions for Office/RuleSolutionsForOffice.exe です。 45ページの『Rule Solutions for Office のイ ンストール』 を参照してください。
サンプルおよびチュートリアル	サンプルおよびチュートリアル用のプロジェ クトをインストールし、WebSphere Application Server 上にサンプルおよびチュー トリアルを実行するためのサンプル・サーバ ー・プロファイルを提供します。
	WebSphere Application Server は、このオプ ションの前提条件です。

表 3. Decision Center のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明
ローカル・ヘルプ・システム	ヘルプ・システムはオンラインのインフォメ
	ーション・センターを指しているため、デフ
	ォルトではこのフィーチャーは選択されませ
	h.
	ヘルプ・コンテンツにローカルでアクセスす
	るには、「 ローカル・ヘルプ・システム 」オ
	プションを選択できます。 ローカル・ヘル
	プ・システムを使用する場合は、Web からへ
	ルプ・コンテンツを初めてダウンロードする
	ときにのみインターネット接続が必要になり
	ます。ヘルプ・コンテンツをダウンロードし
	たら、ローカル・ヘルプをセットアップする
	必要があります。 詳しくは、『貨料のロー
	カルへのインストールおよひアクセス』を参
	里安: ローカル・ヘルノ・システムは、Red
	Hat Enterprise Linux (RHEL) などの 64 ビッ
	ト・ノラットノオームじは、32 ヒット互換
	住フイノフリーがインストールされていない
	「場面は期任しません。

Decision Server のフィーチャー

次の表は、IBM Decision Server パッケージに含まれているフィーチャーを示しています。

表4. Decision Server のフィーチャー

フィーチャー 説明			
Decision Server Rules			
Rule Designer	Rule Designer は、ビジネス・ルール・アプリ ケーションを設計するための Eclipse 内の開 発環境です。開発者、ビジネス・アナリス ト、およびアーキテクトを対象としていま す。 Rule Designer のビューおよびエディタ ーは、Eclipse の「ルール」パースペクティブ から利用できます。		
Rule Designer > Scorecard Modeler	Scorecard Modeler は、Rule Designer に組み 込まれた追加プラグインの集合です。 Scorecard Modeler を使用してスコアカードを 作成し、それらをビジネス・ルールに組み込 んで、複数のプラットフォーム間で共有する ことができます。		

表 4. Decision Server のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明
Rule Execution Server	Rule Execution Server は、ビジネス・ルール の実行プラットフォームで、ルール・エンジ ンが組み込まれています。また、ビジネス・ ルールの実行を管理およびモニターするため のコンソールも提供します。
	デフォルトでは、Rule Execution Server は、 WebSphere Application Server 上のサンプル・ サーバー・プロファイル上にインストールさ れます。 製品のインストールを完了した後 は、Rule Execution Server を別の WebSphere Application Server プロファイルで構成と配布 を行ったり、他のサポートされているアプリ ケーション・サーバーにインストールしたり することもできます。
	所有するライセンスのタイプを選択します。
	Non-Production ライセンス 開発のために製品を使用する場合 は、このオプションを選択します。
	このライセンスは、内部の非実動ア クティビティー用の開発およびテス ト環境の一部としてのみ配布できま す。
	Production ライセンス 実動用に製品を使用する場合は、こ のオプションを選択します。
Rule Execution Server: その他のアプリケー ション・サーバー用のインストール・アー ティファクト > Rule Execution Server for	Tomcat に Rule Execution Server を配布して 構成するためのアーカイブを提供します。 こ のアーカイブは <installdir>/</installdir>
Tomcat	executionserver/applicationservers/tomcat にコピーされます。
	アーカイブを使用して Rule Execution Server の配布および構成を行う方法について詳しく は、『構成Rule Execution Server』を参照して ください。
Rule Execution Server: その他のアプリケー ション・サーバー用のインストール・アー ティファクト > Rule Execution Server for JBoss	JBoss に Rule Execution Server を配布して構成するためのアーカイブを提供します。 この アーカイブは <installdir>/ executionserver/applicationservers/JBoss</installdir>
	アーカイブを使用して Rule Execution Server の配布および構成を行う方法について詳しく は、『構成Rule Execution Server』を参照して ください。

表4. Decision Server のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明		
Rule Execution Server: その他のアプリケー ション・サーバー用のインストール・アー ティファクト > Rule Execution Server for WebLogic Server	WebLogic Server に Rule Execution Server を 配布して構成するためのアーカイブを提供し ます。このアーカイブは <installdir>/ executionserver/applicationservers/ WebLogic にコピーされます。</installdir>		
	アーカイブを使用して Rule Execution Server の配布および構成を行う方法について詳しく は、『構成Rule Execution Server』を参照して ください。		
Decision Server Events	WebSphere Application Server は、Decision Server Events の前提条件です。		
Event Designer	イベント・アプリケーションの設計、開発、 テスト、配布、およびモニターを行うための Eclipse 内の開発環境です。Event Designer は、Eclipse の「 イベント 」パースペクティブ から利用できます。		
ランタイム > Event Runtime	Event Runtime は、リアルタイムのビジネス・ イベント調整を管理する実行プラットフォー ムです。 Event Runtime を使用するには、 WebSphere eXtreme Scale が必要です。Event Runtime は、WebSphere Application Server に 配布して構成することが必要です。		
	所有するライセンスのタイプを選択します。		
	Non-Production ライセンス 開発のために製品を使用する場合 は、このオプションを選択します。		
	このライセンスは、内部の非実動ア クティビティー用の開発およびテス ト環境の一部としてのみ配布できま す。		
	Production ライセンス 実動用に製品を使用する場合は、こ のオプションを選択します。		
ランタイム > イベント・テスター・イネー ブ ラー	イベント・テスター・イネーブラーが選択さ れると、イベント・テスター・ウィジェット が使用可能になります。		
ランタイム > イベント・コネクター (レガ シー)	イベント・コネクターは、Event Runtime と外 部システム間のデータ接続を提供します。 レ ガシー・コネクターには、email および ftp が含まれます。		

表 4. Decision Server のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明
Decision Server のイベント・ウィジェット	イベント取り込みウィジェットとイベント再 生ウィジェットを使用して、実動システムの イベントを取り込み、一連のイベントを通常 はテスト・システムで再生することができま す。
	イベント・テスター・ウィジェットでは、ビ ジネス・プロセスでイベント・ロジックをテ ストすることができます。このウィジェット はテストを対象としているため、テスト・イ ンストールでのみ使用してください。 実動イ ンストールでは使用しないでください。パフ ォーマンスに影響することがあります。
	詳しくは、『グラフ・ウィジェットを使用し たビジネス・イベント処理のモニター』を参 照してください。
統合コンポーネント	統合コンポーネントを WebSphere ESB およ び WebSphere Message Broker のツールにイ ンストールすることで、これらの製品と Decision Server Events との間でデータを送受 信することができます。
共有コンポーネント	1
サンプルおよびチュートリアル	サンプルおよびチュートリアル用のプロジェ クトをインストールし、WebSphere Application Server 上にサンプルおよびチュー トリアルを実行するためのサンプル・サーバ ー・プロファイルを提供します。
	WebSphere Application Server は、このオプションの前提条件です。
他の Eclipse 製品にインストールするため の更新サイト	Rule Designer および Event Designer のフィ ーチャーを既存の Eclipse にインストールす るための Eclipse 更新サイト (および Designer プラグインのコピー)を含む圧縮フ ァイルを提供します。この フィーチャーは、 Operational Decision Manager をインストール した後で、サポートされる Eclipse に Designer プラグインをインストールする代替 方法になります。
	詳しくは、Rule Designer を使用した Eclipse の拡張の更新サイトを参照してください。

表 4. Decision Server のフィーチャー (続き)

フィーチャー	説明
ローカル・ヘルプ・システム	ヘルプ・システムはオンラインのインフォメ
	ーション・センターを指しているため、デフ
	ォルトではこのフィーチャーは選択されませ
	<i>.</i>
	ヘルプ・コンテンツにローカルでアクセスす
	るには、「ローカル・ヘルプ・システム」オ
	プションを選択できます。 ローカル・ヘル
	プ・システムを使用する場合は、Web からへ
	ルプ・コンテンツを初めてダウンロードする
	ときにのみインターネット接続が必要になり
	ます。ヘルプ・コンテンツをダウンロードし
	たら、ローカル・ヘルプをセットアップする
	必要があります。 詳しくは、『資料のローカ
	ルへのインストールおよびアクセス』を参照
	してください。
	重要: ローカル・ヘルプ・システムは、Red
	Hat Enterprise Linux (RHEL) などの 64 ビッ
	ト・ブラットフォームでは、32 ビット互換性
	ライブラリーがインストールされていない場
	合は動作しません。

Profile templates for WebSphere Application Server

このコンポーネントには、Operational Decision Manager を WebSphere Application Server に配布するために必要なイベントおよびルール・テンプレート・プロファイ ルとランタイムが含まれています。

プロファイル・テンプレートについて詳しくは、『Operational Decision Manager プ ロファイル・テンプレート』を参照してください。

Business Rules Embedded

Business Rules Embedded では、ビジネス・ルールを使用して Eclipse Rich Client Platform (RCP) アプリケーション、または Dojo ベースの Web アプリケーション の動作を動的に構成できます。

このコンポーネントについて詳しくは、『Business Rules Embedded』を参照してください。

サイレント・モードでのインストール

場合によっては、Operational Decision Manager を特別な構成で複数コンピューター にインストールする必要があります。 Installation Manager をサイレント・インスト ール・モードで実行してインストール・プロセスを自動化することによって、製品 のコンポーネントをインストールし、製品を複数のシステムに配布することができ ます。 インストールする製品に対応した応答ファイルを使用して Installation Manager を実 行することで、サイレント・インストールが行われます。テンプレート応答ファイ ルがインストーラーに付属で提供されており、サイレント・インストールの実行に 役立てることができます。

Installation Manager のサイレント・インストール

Installation Manager インストーラーを使用して、Installation Manager のサイレント・インストールを実行してから、インストーラーを使用して製品パッケージのサイレント・インストールを実行します。

このタスクについて

サイレント・モードでは、Installation Manager ユーザー・インターフェースとのイ ンタラクションはありません。

Operational Decision Manager には Installation Manager バージョン 1.6.2 がバンド ルされています。Operational Decision Manager 製品のインストールには、 Installation Manager バージョン 1.6.0 以上が必要です。

手順

Installation Manager のサイレント・インストールを行うには、以下のようにします。

1. Operational Decision Manager インストール・ディスクを抽出したロケーション に移動して、 diskX¥IM¥. にアクセスしてください。

IM ディレクトリーは、任意のディスクに入れて使用できます。 Linux 64 ビットを使用する場合は、ディレクトリーは IM64 です。

2. ディレクトリー diskX¥responsefiles に移動します。

responsefiles ディレクトリーは、任意のディスクに入れて使用できます。

- ファイル IM_Silent.xml で、 !IM_REPOSITORY! を Installation Manager インス トーラーが配置されたディレクトリーのパスに置換します。標準的な値は、
 <install root>¥diskX¥IM です。
- 4. 以下のコマンドのいずれかを実行します。
 - 管理者の場合は、次を実行します。

installc <path_to_silent_file>¥IM_Silent.xml -acceptlicense

• 管理者でない場合は、次を実行します。

userinstc <path_to_silent_file>¥IM_Silent.xml -acceptlicense

必須ソフトウェア用の応答ファイルの設定

WebSphere Application Server および WebSphere eXtreme Scale は、他の Operational Decision Manager パッケージをインストールするための前提条件です。 WebSphere eXtreme Scale は、Decision Server Events をインストールする場合に必 須です。これらは、提供されている応答ファイルを使用してサイレント・インスト ールすることができます。

このタスクについて

Installation Manager は応答ファイルを使用して、サイレント・モードでのインスト ールを実行します。以下の手順は、WebSphere Application Server および WebSphere eXtreme Scale のサイレント・インストールを実行するために、提供されている応答 ファイルを設定する方法を説明しています。

手順

WebSphere Application Server の応答ファイルの設定

1. Operational Decision Manager インストール・ディスクを抽出したロケーション に移動して、 diskX¥responsefiles にアクセスしてください。

応答ファイルは、任意のディスクに入れて使用できます。

- 2. ファイル Prerequisites_WAS_Silent.xml で、!WAS_REPOSITORY! を、WebSphere Application Server インストーラーが配置されているパスに置換します。例えば、<install_root>¥disk1¥WAS などにします。
- 3. 変数 !WAS_PROFILE_ID! を任意のストリングで置換します。この値は、 Installation Manager が WebSphere Application Server のインストール用プロファ イルに名前を指定するために内部で使用するものです。
- 変数 !WAS_HOME! を、WebSphere Application Server のインストール先ディレクトリーのパスに置換します。例えば、c:¥Program Files¥IBM¥WAS などにします。
- 5. WebSphere Application Server を 64 ビット・モードでインストールする場合 は、ファイルに示された値で変数 !BIT_64! を置換します。それ以外の場合は、 この行は削除してください。
- 変数 !WAS_SDK_FEATURE_BIT_ 32_OR_64! は、WebSphere Application Server の32 ビットをインストールするか、64 ビットをインストールするかによって、値 com.ibm.sdk.6_32bit または com.ibm.sdk.6_64bit に置換します。

WebSphere eXtreme Scale の応答ファイルの設定

7. Operational Decision Manager のインストール・ディスクを抽出したロケーションに移動して、diskX¥responsefiles にアクセスしてください。

応答ファイルは、任意のディスクに入れて使用できます。

ファイル wxssetup.response.xml の -OPT installLocation の値に、
 WebSphere Application Server をインストールしたディレクトリーのパスを設定します。例えば、c:¥Program Files¥IBM¥WAS などにします。

Decision Server および Decision Center 用の応答ファイルの設 定

WebSphere Application Server および WebSphere eXtreme Scale 用の応答ファイルの セットアップと同じ方法で、 Operational Decision Manager パッケージ (Decision Center および Decision Server) のサイレント・インストール用の応答ファイルを構 成することができます。

このタスクについて

Installation Manager は応答ファイルを使用して、サイレント・モードでのインスト ールを実行します。以下の手順は、Decision Center および Decision Server のサイ レント・インストールを実行するために、提供されている応答ファイルを設定する 方法を説明しています。

手順

1. Operational Decision Manager インストール・ディスクを抽出したロケーション に移動して、 diskX¥responsefiles にアクセスしてください。

応答ファイルは、任意のディスクに入れて使用できます。

2. ファイル WODM_Silent.xml で、!WDC_REPOSITORY! と !WDS_REPOSITORY! をそれ ぞれ、 Decision Center と Decision Server のインストーラーが置かれているパ スに置換します。

例えば、Decision Center では <install_root>¥disk3¥WDC に、 Decision Server では <install_root>¥disk2¥WDS に置換します。

3. 変数 !WODM_PROFILE_ID! を、 Installation Manager が内部で使用する値に置換 し、 Operational Decision Manager インストール用プロファイルに名前を付けま す (Operational Decision Manager V8.5)。

このプロファイルは、Installation Manager のプロファイルに対応するものであり、 WebSphere Application Server プロファイルに対応するものではありません。

- 4. 変数 !WODM_HOME! を Operational Decision Manager のインストール先ディレクトリーのパスに置換します。例えば、C:¥Program Files¥IBM¥0DM851 などにします。
- 5. 変数 !ADMIN_USERNAME! および !ADMIN_PASSWORD! を、安全保護の目的で WebSphere Application Server に必須のユーザー名とパスワードに置換します。
- Operational Decision Manager Express ライセンスを所有していれば、変数 !EXPRESS_OPTION! を true に置換します。 この値を true に設定しない場合 は、デフォルトで、製品の標準バージョンがインストールされます。実行するイ ンストールのタイプに対応したライセンスを所有していることを確認してくださ い。
- 変数 !WODM_FEATURES_DECISION_CENTER!、
 !WODM_FEATURES_DECISION_SERVER_RULES!、および
 !WODM_FEATURES_DECISION_SERVER_EVENTS! を、インストールするフィーチャーのコンマ区切りリストで置換します。

以下の表は、使用可能なすべてのフィーチャーの完全リストです。これらのフィ ーチャーについて詳しくは、31ページの『インストールするフィーチャーの選 択』を参照してください。

表5. インストールするフィーチャーのリスト

製品	フィーチャーのリスト
Decision	• jdk
Center	• 基本
	• Decision Center
	• Rule Solutions for Office
	• com.ibm.wdc.rules.samples.feature
	• com.ibm.wbdm.dts.tomcat.feature
	• com.ibm.wbdm.dts.jboss.feature
	• com.ibm.wbdm.dts.weblogic.feature
	 com.ibm.wdc.event.widgets.feature
Decision	• com.ibm.wds.jdk.feature
Server Rules	• 基本
	• com.ibm.wds.updatesites.feature
	• com.ibm.wds.rules.studio.feature
	• com.ibm.wds.rules.res.feature
	 com.ibm.wds.rules.samples.feature
	 com.ibm.wds.rules.scorecard.feature
	 com.ibm.wds.rules.res.tomcat.feature
	 com.ibm.wds.rules.res.jboss.feature
	 com.ibm.wds.rules.res.weblogic.feature
Decision	• com.ibm.wds.jdk.feature
Server	• 基本
Livents	 com.ibm.wds.updatesites.feature
	 com.ibm.wds.studio.events.feature
	 com.ibm.wds.events.runtime.feature
	 com.ibm.wds.events.connectors.feature
	 com.ibm.wds.events.integration.feature
	 com.ibm.wds.events.propertiesui.feature
	 com.ibm.wds.event.widgets.feature
	• com.ibm.wds.events.tester.feature

関連概念:

Operational Decision Manager Express

Profile templates for WebSphere Application Server 用の応答 ファイルの設定

Decision Center および Decision Server を WebSphere Application Server に配布す る場合、応答ファイルをセットアップして、対応するプロファイル・テンプレート およびランタイムをサイレント・インストールできます。

このタスクについて

Installation Manager は応答ファイルを使用して、サイレント・モードでのインスト ールを実行します。以下の手順では、提供されている応答ファイルをセットアップ して、Profile templates for WebSphere Application Server のサイレント・インストー ルを実行する方法について説明します。

手順

1. Operational Decision Manager インストール・ディスクを抽出したロケーション に移動して、 diskX¥responsefiles にアクセスしてください。

応答ファイルは、任意のディスクに入れて使用できます。

- ファイル OW_Silent.xml で、!OW_REPOSITORY! を、Profile templates for WebSphere Application Server のインストーラーが配置されているパスに置換し ます。例えば、<install_root>¥disk1¥0W などにします。
- 3. 変数 !WODM_PROFILE_ID! を、Installation Manager が内部で使用する値に置換 し、Operational Decision Manager インストール用プロファイルに名前を付けま す (Operational Decision Manager V8.5)。

このプロファイルは、Installation Manager のプロファイルに対応するものであり、 WebSphere Application Server プロファイルに対応するものではありません。

Operational Decision Manager のサイレント・インストール

すべての応答ファイルをセットアップしたら、サイレント・インストールを開始で きます。

このタスクについて

以下の手順は、Installation Manager を使用した Operational Decision Manager のサ イレント・インストールの実行方法を説明しています。インストールは、ここに示 される順序で実行する必要があります。

手順

- 1. Installation Manager をインストールするには、以下のようにします。
 - 管理者の場合は、次のように入力します。

installc <path_to_silent_file>¥IM_Silent.xml -acceptlicense

• 管理者でない場合は、次のように入力します。

userinstc <path_to_silent_file>#IM_Silent.xml -acceptlicense

- 2. WebSphere Application Server をインストールするには、以下のようにします。
 - Windows システムの場合:
 - a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
 - b. ディレクトリー eclipse¥tools に移動します。
 - c. 次のコマンドを入力します。imcl.exe input <path_to_response_file>¥Prerequisites_Silent.xml -acceptLicense
 - Unix システムの場合:

- a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
- b. ディレクトリー eclipse/tools に移動します。
- c. 次のコマンドを入力します。./imcl input <path_to_response_file>/ Prerequisites_Silent.xml -acceptLicense
- 3. WebSphere eXtreme Scale をインストールするには、以下のようにします。
 - Windows システムの場合:
 - a. ディレクトリー <install_root>¥WXS に移動します。
 - b. 次のコマンドを入力します。

install.bat -options "<path_to_response_file>¥wxssetup.response"
-silent

- Unix システムの場合:
 - a. ディレクトリー <install_root>¥WXS に移動します。
 - b. 次のコマンドを入力します。

./install -options "<path_to_response_file>/wxssetup.response"
-silent

- Operational Decision Manager コンポーネントをインストールするには、以下の ようにします。
 - Windows システムの場合:
 - a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
 - b. ディレクトリー eclipse¥tools に移動します。
 - c. 次のコマンドを入力します。

imcl.exe input <path_to_response_file>#WODM_Silent.xml
-acceptLicense

- ・ Unix システムの場合:
 - a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
 - b. ディレクトリー eclipse/tools に移動します。
 - c. 次のコマンドを入力します。

./imcl input <path_to_response_file>/WODM_Silent.xml -acceptLicense

- 5. Profile templates for WebSphere Application Server をインストールするには、以下のようにします。
 - Windows システムの場合:
 - a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
 - b. ディレクトリー eclipse¥tools に移動します。
 - c. 次のコマンドを入力します。

imcl.exe input <path_to_response_file>¥0W_Silent.xml -acceptLicense

- ・ Unix システムの場合:
 - a. Installation Manager をインストールしたディレクトリーに移動します。
 - b. ディレクトリー eclipse/tools に移動します。
 - c. 次のコマンドを入力します。

Rule Solutions for Office のインストール

Decision Center のインストールが完了すると、Rule Solutions for Office のインスト ーラーを手動で実行できます。

始める前に

Installation Manager を使用して製品をインストールした場合、「Rule Solutions for Office」フィーチャーを選択したことを確認します。 31 ページの『インストールするフィーチャーの選択』を参照してください。

Rule Solutions for Office をインストールするには、Microsoft Office のサポートされるバージョンが必要です。詳しくは、 MicrosoftOffice との連動を参照してください。

このタスクについて

Rule Solutions for Office は、ビジネス・ユーザーが Microsoft Word または Excel でビジネス・ルールの作成および編集を実行できるようにする、オプションのコン ポーネントです。 Installation Manager の「Rule Solutions for Office」フィーチャーは、Rule Solutions for Office のインストーラーをインストール・ディレクトリー にコピーします。

手順

- 1. <*InstallDir*>/Rule Solutions for Office/ にナビゲートします。
- 2. RuleSolutionsForOffice.exe ファイルをダブルクリックして実行します。
- 3. インストール・ウィザードのステップに従います。

インストールの確認

インストール・ディレクトリーの内容を検証し、ショートカットを使用してプロダ クト・コンポーネントと資料にアクセスすることができます。

インストール・ディレクトリー内のフォルダー

Operational Decision Manager コンポーネントのインストール終了後、インストール・ディレクトリーの内容を検証できます。

ファイル・システム内の <InstallDir> フォルダー (例えば、C:¥Program Files¥IBM¥ODM851) に移動します。Operational Decision Manager コンポーネントは 以下のフォルダーにインストールされます。

表 6. コンポーネントとフォルダーのマッピング

コンポーネント	フォルダー	
Decision Server Rules		
Rule Designer	studio	
Rule Execution Server	executionserver	
「スタートアップ」チュートリアル	gettingstarted	

- 衣り、コンか - ケントこノオルシー シャンヒンシー 航さ	表6.	コンポー	・ネント	とフォ	ルダーのマ	ッピング	(続き
---------------------------------	-----	------	------	-----	-------	------	-----

コンポーネント	フォルダー
共用サード・パーティー・ツール	shared
サンプル・サーバー	shared/sampleServer
.NET エンジンおよびマイグレーション・ツ	dotnet
Rule Designer 用構成ファイルおよびプラグ	configuration
ローカル・ヘルプ・システムおよび XML ス キーマ	doc
Rule Designer 拡張機能	dropins
Eclipse の構成処理中にプラグインを 1 つの 機能にまとめるためのファイル	features
Eclipse プラグイン	plugins
JDK (Windows の場合のみ)	jdk
使用許諾契約書ファイル	license
プロビジョニング・システム・ファイル	p2
Decision Server Events	
レガシー・イベント・コネクター	connectors
イベント・ランタイム・エンジンをサポート	runtime
するファイル。このディレクトリーには、イ	
ベント・クフフ・ワイジェット、イベント・	
リフノ・マイーンヤー、イベント・ナスター イベントの取り込みウィジェット おト	
「バイベント再生ウィジェットをダウンロード	
してインストールするための圧縮ファイルも	
含まれます。	
イベント・コネクター	ca
構成ファイル	config
Event Designer 用構成ファイルおよびプラグ	configuration
イン	
Event Designer 拡張機能	dropins
その他 IBM 製品 (WebSphere Message	integration
Broker や WebSphere ESB など) との統合	
Decision Center	teamserver、Rule Solutions for Office (オ プション)
Business Rules Embedded	rules-sdk

IBM Installation Manager は、 Eclipse プラグインを共有リソース・ディレクトリー にインストールします。共有リソース・ディレクトリーには、 1 つ以上のパッケー ジ・グループで共有されるリソースが含まれています。このディレクトリーは IBM Installation Manager が管理しているので、ユーザーはこのディレクトリーの中にあ るものを一切変更しないでください。 製品をインストールする際、IBM Installation Manager 内の対応するオプションを選 択した場合、Eclipse プラグインは <InstallDir>/studio/update-sites にもコピー されます。更新サイトは、ユーザーが解凍してプラグインを表示できる ZIP ファイ ルで配布されます。

WebSphere Application Server 用コンポーネント・プロファイル・テンプレートをインストールした場合、対応するフォルダーは以下のディレクトリー内にあります。

ルール・プロファイルの場合、<WAS_InstallDir>/profileTemplates/rules。

イベント・プロファイルの場合、<WAS InstallDir>/profileTemplates/wbe。

メニューのショートカット

インストーラーがショートカット・メニューに追加する、「スタート」メニューか らアクセス可能なコンポーネントのリスト。

ユーザーが何をインストールするかによって、インストーラーがショートカット・ メニューに追加するショートカットが決まります。例えば Rule Designer を選んだ 場合は、 Rule Designer 用のショートカットが追加されます。Rule Execution Server を選んだ場合は、 Rule Execution Server コンソール用のショートカットが追加され ます。

「スタート」メニューのナビゲーシ	ショートカット
ョン	
「スタート」 > 「すべてのプログラ	パッケージ・グループ・レベルでは以下が選択可能で
$\Delta \downarrow > \lceil IBM \rfloor >$	す。
「Package_Group」	 「Event Designer」を選択すると、 Eclipse がイベント・パースペクティブで 開きます。
	 Operational Decision Manager インフォメーション・センター。
	 「Rule Designer」を選択すると、 Eclipse がルー ル・パースペクティブで開きます。
	 「Rule Solutions for Office」を選択すると、Rule Solutions for Office が開きます。このショートカッ トは、Rule Solutions for Office をインストールし た場合のみ使用可能です。Rule Solutions for Office をインストールする場合は、インストー ル・マネージャー中の対応するオプションを選択す る必要があります。それから、<installdir>/Rule solutions for Office 内に用意されている.exe ファイルを使用して、インストールを手動で実行し ます。</installdir>

「スタート」メニューのナビゲーシ	ショートカット
ョン	
「スタート」 > 「すべてのプログラ	「入門チュートリアル」では以下が選択可能です。
ム」 > 「IBM」 > 「Package_Group」 > 「入門チュー	 「Decision Center Business console」を選択する と、「ビジネス・コンソール入門」が開きます。
トリアル] 	 「Decision Center Enterprise console」を選択する と、「エンタープライズ・コンソール入門」が開き ます。
	 「Decision Server Events」を選択すると、「イベント入門」が開きます。
	 「Decision Server Rules」を選択すると、「ビジネ ス・ルール入門」が開きます。
「スタート」 > 「すべてのプログラ ム」 > 「IBM」 >	このショートカットを使用して、以下の資料やサポー ト情報を検索することができます。
「Package_Group」 > 「ヘルプおよ びサポート」	 「問題分析のためのデータ収集」を選択すると、診 断データを収集するための IBM Support Assistant Data Collector が開きます。 「オンライン・サポート」を選択すると、IBM サ
	• 「インフィン・ワホート」を選択すると、IBM リ ポートのホーム・ページが開きます。

「スタート」メニューのナビゲーシ	ショートカット
ョン	
「スタート」 > 「すべてのプログラ ム」 > 「IBM」 > 「Package_Group」 > 「サンプル・	このショートカットを使用すると、以下に示すサンプ ル・サーバーのツールと機能にアクセスできます。 ・ イベント・ツール :
サーバー」	 「コネクター」を選択すると、イベント・レガシー・コネクター用ツールが開きます。
	- 「 イベント・ウィジェット 」を選択すると、 Web ブラウザーに Web アプリケーションが開 きます。
	 「プロパティー」を選択すると、プロパティ ー・ツールが開きます。
	 「管理コンソール」を選択すると、WebSphere Application Server 管理コンソールが開きます。
	 「Decision Center Business console」を選択する と、 Decision Center Business console が開きま す。ターゲットになるのは、en_US パーシスタン ス・ロケールで設定されている、付属のサンプル・ プロジェクトに含まれるデータベースです。
	 「Decision Center Enterprise console」を選択する と、 Decision Center Enterprise console が開きま す。 ターゲットになるのは、en_US パーシスタン ス・ロケールで設定されている、付属のサンプル・ プロジェクトに含まれるデータベースです。
	 「イベント管理コンソール」を選択すると、イベン ト用の管理ユーザー・インターフェースが開きま す。
	• 「Rule Execution Server コンソール」 を選択す ると、 Rule Execution Server コンソールが開きま す。
	 「サンプル・コンソール (en_US)」を選択すると、 en_US ロケール (米国英語) が設定された状態で、 Eclipse がサンプル・コンソール・パースペクティブで開きます。
	 「サーバーの開始」を選択すると、サンプル・プロ ファイルが WebSphere Application Server 上で開始 されます。
	 「サーバーの停止」を選択すると、WebSphere Application Server 上のサンプル・プロファイルが 停止します。

ショートカット・コマンド

ショートカット・コマンドを使用してアクセスできるコンポーネントのリストで す。

インストーラーは、関連するショートカットを、Windows 上ではバッチファイル (.bat) 形式で、Linux 上では Bash シェル・スクリプト (.sh) 形式で追加します。

ご使用になる個々のオペレーティング・システム環境で利用可能なショートカット・コマンドは、以下のページで調べることができます。

- 『Windows』
- 『Linux』

Windows

ショートカット	Windows コマンド
管理コンソール (サンプル・サーバ	<installdir>/shared/bin/</installdir>
—)	Administrativeconsole.bat
コネクター	<installdir>/connectors/bin/connectors.bat</installdir>
Decision Center エンタープライズ・	<installdir>/shared/bin/dcecopener.bat</installdir>
コンソール (サンプル・サーバー)	
Decision Center ビジネス・コンソー	<installdir>/shared/bin/dcbcopener.bat</installdir>
ル (サンプル・サーバー)	
イベント管理コンソール	<installdir>/shared/bin/EventRuntimeopener.bat</installdir>
Event Designer	<installdir>/eclipse.exe -init -consolelog</installdir>
	-perspective com.ibm.wbe.BusinessEvents
Decision Server ルール入門	<installdir>/images/</installdir>
	GettingStartedServerRules.bat
Decision Center ビジネス・コンソー	<installdir>¥images¥</installdir>
ル入門	GettingStartedCenterBusinessConsole.bat
Decision Center エンタープライズ・	<installdir>¥images¥</installdir>
コンソール入門	GettingStartedCenterEnterpriseConsole.bat
Decision Server イベント入門	<installdir>¥images¥</installdir>
	GettingStartedServerEvents.bat
インフォメーション・センター (リ	<installdir>/images/InfoCenterOnline.bat</installdir>
モート)	
問題分析用データ収集	<installdir>/shared/isadc/index.html</installdir>
プロパティー	<installdir>/connectors/bin/propertiesui.bat</installdir>
Rule Execution Server コンソール	<installdir>/shared/bin/dsopener.bat</installdir>
(サンプル・サーバー)	
Rule Designer	<eclipse_installdir>/eclipse.exe -init</eclipse_installdir>
	-consolelog -perspective
	ilog.rules.studio.ui.perspectives.
	RuleEditingPerspective
サンプル・コンソール (en_US)	<eclipse_installdir>/eclipse.exe -init</eclipse_installdir>
	-consolelog -nl en_US -perspective
	110g.rules.studio.samples.console.
	VinetallDivs (shared /him (starts survey bat
リーハーの囲始(サンフル・ワーハ	<installulr>/Snared/Din/StartServer.Dat</installulr>
	<installdim hat<="" him="" shawed="" starservice="" th=""></installdim>
	<pre>>Installulr>/Shareu/Din/StopServer.Dat</pre>
)	

Linux

ショートカット	Linux コマンド
管理コンソール (サンプル・サーバ	<installdir>/shared/bin/Administrativeconsole.sh</installdir>
-)	
コネクター	<installdir>/connectors/bin/connectors.sh</installdir>
Decision Center エンタープライズ・ コンソール (サンプル・サーバー)	<installdir>/shared/bin/dcecopener.sh</installdir>
Decision Center ビジネス・コンソー ル (サンプル・サーバー)	<installdir>/shared/bin/dcbcopener.sh</installdir>
イベント管理コンソール	<installdir>/shared/bin/EventRuntimeopener.sh</installdir>
Event Designer	<installdir>/eclipse -init -consolelog -perspective com.ibm.wbe.BusinessEvents</installdir>
Decision Server ルール入門	<installdir>/images/GettingStartedServerRules.sh</installdir>
Decision Center ビジネス・コンソー ル入門	<installdir>¥images¥ GettingStartedCenterBusinessConsole.sh</installdir>
Decision Center エンタープライズ・	<installdir>¥images¥</installdir>
コンソール入門	GettingStartedCenterEnterpriseConsole.sh
Decision Server イベント入門	<installdir>¥images¥</installdir>
	GettingStartedServerEvents.sh
インフォメーション・センター (リ モート)	<installdir>/images/InfoCenterOnline.sh</installdir>
問題分析用データ収集	<installdir>/shared/isadc/start_isadc.sh</installdir>
プロパティー	<installdir>/connectors/bin/propertiesui.sh</installdir>
Rule Execution Server コンソール (サンプル・サーバー)	<installdir>/shared/bin/dsopener.sh</installdir>
Rule Designer	<eclipse_installdir>/eclipse -init -consolelog -perspective ilog.rules.studio.ui.perspectives. RuleEditingPerspective</eclipse_installdir>
サンプル・コンソール (en_US)	<eclipse_installdir>/eclipse -init -consolelog -nl en_US -perspective ilog.rules.studio.samples.console.perspectives. SamplesPerspective</eclipse_installdir>
サーバーの開始 (サンプル・サーバ ー)	<installdir>/shared/bin/startserver.sh</installdir>
サーバーの停止 (サンプル・サーバ ー)	<installdir>/shared/bin/stopserver.sh</installdir>

資料のローカルへのインストールおよびアクセス

デフォルトでは、ヘルプ・システムはインターネットを使用してインフォメーショ ン・センターに接続します。ただし、インストール・マネージャーで「ローカル・ ヘルプ・システム」オプションを選択した場合は、資料をローカルに、あるいはネ ットワーク上にインストールすることができます。

コンピューターへの製品資料のインストール

インフォメーション・センターのローカル・コピーをインストールするには、 Installation Manager の 「**ローカル・ヘルプ・システム**」オプションを選択してイン ストールしたヘルプ・システムを開始し、資料をダウンロードします。

始める前に

Installation Manager を使用して製品をインストールする場合は、「**ローカル・ヘル プ・システム**」オプションを選択して、ご使用のコンピューターにヘルプ・システ ムをインストールしてください。

このタスクについて

デフォルトでは、ヘルプシステムはインターネットを介して資料に接続します。し かし、そうせず、ご使用のマシンに資料を直接インストールすることもできます。 このオプションは、オフラインで、あるいはインターネットにアクセスできないコ ンピューター上で資料を表示する場合に役に立ちます。ローカル版の資料をセット アップするには、ヘルプ・システムを開始し、プラグインをダウンロードしてイン ストールします。

注:

資料をダウンロードするには、インターネットにアクセスする必要があります。

重要:

ローカル・ヘルプ・システムは、 32 ビット互換ライブラリーがインストールされ ていない 64 ビットのプラットフォーム (Red Hat Enterprise Linux (RHEL) など) では動作しません。

手順

- 1. ヘルプシステムを以下のいずれかの方法で開始します。
 - 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「package_group」 > 「Operational Decision Manager インフォメーション・ センター (ローカル)」をクリックします。

package_group は、インストール時に IBM Installation Manager で指定された パッケージ・グループを指します。デフォルトのパッケージ・グループは Operational Decision Manager です。

- 以下のスクリプトを実行します。
 - <InstallDir>/doc/help_start.bat (Windows の場合)
 - <InstallDir>/doc/help_start.sh (Linux の場合)

英語以外のロケールでインフォメーション・センターを実行するには、 <InstallDir>/doc/help_start.bat ファイル、または <InstallDir>/doc/ help_start.sh ファイルの、-vmargs 引数の前にロケール引数 (-nl xx_XX) を 追加します。例:

-eclipsehome eclipse -nl fr_FR -configuration configuration_iehs

新しいブラウザー・ウィンドウが開きます。さらに資料の内容をダウンロード しなければならないので、資料は表示されません。

注:

製品を Windows 7 の Program Files ディレクトリーまたは Program Files (x86) ディレクトリーに、管理者特権を付けずにインストールすると、ヘルプ システムを開始できない場合があります。潜在的な問題を避けるため、製品は 必ず管理者権限を付けてインストールするか、別のディレクトリーにインスト ールしてください。

- 2. ツールバーにある ⁽¹⁾ 「更新」をクリックして、すでにインストールされている 資料セットのリストを表示します。
- 3. 「次へ」をクリックして、インストールできる資料セットのリストを表示しま す。 このリストには、英語およびその他のサポートされている言語の資料セッ ト、およびその他の製品の資料が含まれています。
- 4. インストールする資料セットを選択します。
- 5. 「**インストール**」をクリックします。 更新ウィザードによって、資料がインス トールされます。
- 6. 「OK」をクリックしてから、「終了」をクリックします。
- 7. ページを最新表示すると、資料が表示されます。

タスクの結果

資料がお使いのコンピューターにインストールされました。

Rule Designer でのローカル・コンテキスト・ヘルプへのアクセス

Rule Designer からローカル・ヘルプ・システムにアクセスするには、まず資料をロ ーカルにインストールする必要があります。

始める前に

Rule Designer で資料にオンラインでなくローカルでアクセスしたい場合には、 Installation Manager で「ローカル・ヘルプ・システム」オプションが選択されてい ることを確認してください。 Installation Manager で選択されているオプションを変 更することができます。資料をローカルにインストールした後は、ローカル・イン フォメーション・センターへのアクセスにインターネット接続は必要なくなりま す。詳細は、52ページの『コンピューターへの製品資料のインストール』を参照し てください。

要確認:オンライン・ヘルプではなくローカル・ヘルプを使用する特別な必要性が ない場合には、Installation Manager で「ローカル・ヘルプ・システム」オプション を選択する必要はありません。デフォルトでは、オンライン・ヘルプがアクティブ 化され、構成する必要はありません。

このタスクについて

Rule Designer からローカル・コンテキスト・ヘルプを使用するには、インフォメー ション・センターのローカル・インスタンスを開始する必要があります。インスト ーラーは、Rule Designer からヘルプにアクセスするために必要なパラメーターを挿 入します。

インフォメーション・センターの別のインスタンス (例えば、社内ネットワーク上 で実行されている共有インフォメーション・センター・サーバー) を参照するよう にパラメーターを変更するには、Rule Designer で値を変更することができます。

手順

Rule Designer でローカル・ヘルプにアクセスするには、以下のようにします。

- 1. ローカル・ヘルプを使用するための設定が Rule Designer で正しく設定されてい ることを確認します。
 - a. 「ウィンドウ」 > 「設定」 > 「ヘルプ」 > 「内容」とクリックします。
 - b. 「**リモート・ヘルプを組み込み、リモート・ヘルプを優先**」が選択されてい ることを確認します。
 - c. インフォメーション・センターへのリンクを選択して、「編集」をクリック します。
 - d. ローカル・インフォメーション・センターに以下の値が設定されていること を確認します。
 - 「名前」: Operational Decision Manager インフォメーション・センター
 - 「ホスト」: localhost
 - 「パス」: /help
 - ・ 「ポートの使用」: 3333
 - e. 「OK」をクリックし、「適用」、「OK」とクリックします。
- 2. 以下のようにローカル・ヘルプを開始します。
 - 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「package_group」 > 「Operational Decision Manager インフォメーション・ センター (ローカル)」とクリックします。
 - <InstallDir>/doc/help_start.bat (Windows) または <InstallDir>/doc/ help_start.sh (Linux) を実行します。
- 3. 「**ヘルプ**」メニューで、「**ヘルプ・コンテンツ**」をクリックします。

資料を既にインストールした場合は、Operational Decision Manager 製品ファミ リー、Decision Center、および Decision Server のローカル・インフォメーショ ン・センターが表示されます。

資料がインストールされていない場合は、52ページの『コンピューターへの製 品資料のインストール』 に記載されている手順に従ってください。

社内ネットワーク上での共有インフォメーション・センターの実行

社内ネットワーク上でインフォメーション・センターを実行することができます。

始める前に

社内ネットワーク上でインフォメーション・センターを実行する前に、 52 ページの 『コンピューターへの製品資料のインストール』の説明に従って資料をローカルに インストールしたことを確認してください。

このタスクについて

「**ローカル・ヘルプ・システム**」オプションを選択した場合は、社内ネットワーク 上でインフォメーション・センターを実行するようにヘルプ・システムをセットア ップすることができます。

手順

社内ネットワーク上でインフォメーション・センターを開始するには、以下のよう にします。

<InstallDir>/doc/IC_start.bat (Windows の場合) または
 <InstallDir>/doc/IC start.sh (Linux の場合) を実行します。

デフォルトでは、共有インフォメーション・センターはポート 9999 で実行され ます。

 オプション: デフォルト・ポートを変更するには、IC_start.bat ファイルまたは IC_start.sh ファイルを編集し、ポート引数を変更します。例えば、-port <port_number> などです。

共有インフォメーション・センターを開始したら、ブラウザーを使用して他のシ ステムからこのインフォメーション・センターにアドレス http:// <hostname>:<port>/help を指定してアクセスできます。

注: インフォメーション・センターで別のロケールにアクセスするには、URL の最後にロケールを指定します。例えば、http://<*ic_hostname*>:9999/help/ index.jsp?lang=xx_XX です。

ロケールには、

de_DE、es_ES、fr_FR、it_IT、ja_JP、ko_KR、pl_PL、pt_BR、ru_RU、zh_CN、 および zh_TW があります。

- 3. オプション: Rule Designer でヘルプの設定を構成して、インフォメーション・センターにアクセスします。
 - a. 「ウィンドウ」 > 「設定」 > 「ヘルプ」 > 「内容」とクリックします。
 - b. 「**リモート・ヘルプを組み込み、リモート・ヘルプを優先**」を選択し、「新 規」をクリックします。
 - c. 接続先のインフォメーション・センターの値を入力します。以下に例を示し ます。
 - 「名前」: Operational Decision Manager インフォメーション・センター
 - 「ホスト」: <ic_hostname>
 - 「パス」: /help
 - 「ポートの使用」: 9999
 - d. 「OK」をクリックし、「適用」、「OK」とクリックします。

これで、コンテキスト・ヘルプは新しいパラメーターを使用するようになります。

ローカル・ヘルプの停止

Installation Manager で Operational Decision Manager オファリングをアンインスト ールする場合は、アンインストール問題が発生しないように、事前にインフォメー ション・センター・プロセスを停止しておく必要があります。

ローカル・インフォメーション・センターを停止するには、以下のようにします。

- Windows では、<InstallDir>/doc/help_end.bat を実行します。
- Linux では、<InstallDir>/doc/help_end.sh を実行します。

共有インフォメーション・センターを停止するには、以下のようにします。

- Windows では、<InstallDir>/doc/IC_end.bat を実行します。
- Linux では、<InstallDir>/doc/IC_end.sh を実行します。

インストールのトラブルシューティング

製品のインストールで問題が発生した場合は、インストール・ログ、または制限事 項や既知の問題に関する技術情報を確認してください。

IBM サポートに連絡を取る場合は、次の情報をお手元にご用意ください。

- インストールされている Installation Manager のバージョン
- インストールされているコンポーネントおよびバージョン番号
- オペレーティング・システム
- Installation Manager のログ

インストール・ログ

Installation Manager を使用して製品をインストールしているときに問題が発生した場合は、インストール・ログを取得し、発生した問題についての詳細情報を確認します。

- Installation Manager:
 - Windows 2000、XP、および 2003: C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥Installation Manager¥logs
 - Windows Vista、7、および 2008: C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager¥logs¥.settings¥logs
 - UNIX: /var/ibm/InstallationManager/logs

詳細は、「Finding IBM Installation Manager troubleshooting logs」を参照 してください。

- ・ ランチパッド:
 - Windows: %TEMP%¥IBM_LaunchPad_<InstallType>¥

%TEMP% は、Temp ディレクトリーの場所を定義する環境変数です。 <InstallType> は、選択したインストールのタイプを示します。 インス トールを開始する前にランチパッドが失敗した場合は、フォルダー名 にインストール・タイプは示されません。 – UNIX: /tmp/IBM_LaunchPad_<InstallType>/

制限事項および既知の問題

現時点での制限事項および既知の問題のリストについては、技術情報 「Operational Decision Manager V 8.5.1の既知の制約事項」を確認してくだ さい。

プロセスを自動化する環境のセットアップ

RuleApps を Rule Execution Server に配布し、Decision Center 内の管理タスクを自動化し、サンプルの多くを実行するには、Ant がコンピューターにインストールされている必要があります。

このタスクについて

Ant の必要なバージョンは 1.7.1 (以降) です。Ant がインストールされていない場合や、バージョンが 1.7.1 より古い場合は、適切なバージョンの Ant を使用できるように環境をセットアップしてください。

Ant は http://ant.apache.org/ からダウンロードできます。あるいは、ディレクトリー <*InstallDir*>/shared/tools/ant にパッケージされている Ant 1.7.1 の配布を使用 できます。

手順

Ant を使用する環境をテストしてセットアップするには、次の手順に従います。

- 1. ANT_HOME 環境変数を <InstallDir>/shared/tools/ant に設定します。
- 2. JAVA_HOME 環境変数を JDK インストール済み環境 (バージョン 1.7.1) のパス に設定します。
- 3. ディレクトリー **<InstallDir>/shared/tools/ant/bin** を *PATH* 環境変数に追加 します。
- 4. Windows のコマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで以下のように入力して、現行バージョンの Ant をテストします。

ant -version

次の作業

選択したインストール・オプションによっては、インストール後に実行する構成作 業が生じる場合があります。

- サンプル・サーバーのインストール:チュートリアルおよびサンプルの開発、テスト、実行に、構成は必要ありません。58ページの『サンプル・サーバーの始動』を参照してください。
- カスタム・インストール:ユーザー固有のルール・ベースのアプリケーションを 使用するには、実動サーバー上で Operational Decision Manager アプリケーショ ンを構成する必要があります。58ページの『実動内でのアプリケーションの使 用』を参照してください。
- スタンドアロン・サーバーのインストール。『開発者向けの新機能』を参照して ください。

サンプル・サーバーの始動

サンプル・サーバーを初めて始動すると、組み込まれているサンプルおよびチュートリアルを実行するために、 WebSphere Application Server Network Deployment で プロファイル (ODMSample) が構成されます。「スタート」メニュー・ショートカ ットを使用して、サンプル・サーバーを始動できます。

「スタート」 メニューで、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 >

「*package_group*」 > 「サンプル・サーバー」 > 「サーバーの開始」とクリックし ます。*package_group* は、インストール時に IBM Installation Manager で指定された パッケージ・グループを表します。 デフォルトのパッケージ・グループは Operational Decision Manager V8.5.1 です。

プロファイルの作成には数分かかります。 作成が正常に完了するまでお待ちください。

サンプル・サーバーのインストーラーによって自動的にインストールされる環境を 使用して、多数の導入タスクを実行できます。

- 入門チュートリアル、およびその他のコンポーネント固有のチュートリアルを実行できます(入門チュートリアルおよび製品チュートリアルを参照)。
- Eclipse のサンプル・コンソールからサンプルを実行できます (製品サンプルを参照)。

詳しくは、『サンプル・サーバーの使用 (Using the sample server)』を参照してください。

注:

- サンプル・サーバー・プロファイルを使用してイベントを実行する場合は、イベント・ウィジェットおよびイベント管理コンソールへのログインに同じユーザー名とパスワードを使用できます。
- サンプル・サーバーではシングル・サインオン (SSO) 認証がアクティブ化されています。SSO では、ユーザーは一度ログインするとすべてのアプリケーションに対するアクセス権限が得られ、各アプリケーションに対して再度ログインを求められることはありません。サンプル・サーバーで複数のアプリケーションに対して異なるサインオン資格情報を使用している場合 (例えば特定のサンプルやチュートリアルを実行する場合など)、第二のアプリケーションにサインインしようとするとエラー・メッセージが出ます。

この問題を回避するには、第一のコンソールからサインアウトしてから、第二の コンソールにサインインする必要があります。 あるいは、インストール時に入力 した資格情報を使用して、サーバーのすべてのアプリケーションにサインインす ることもできます。

実動内でのアプリケーションの使用

Rule Designer および Event Designer がインストールされており、 Decision Server でアプリケーションの設計を開始できます。

お客様の会社の必要性と使用したい Operational Decision Manager の製品によっては、構成が必要です。

- ルール・ベースのアプリケーションを実行するには、 『Rule Execution Serverの 構成』を参照してください。
- イベント処理を使用するアプリケーションを実行するには、 『Decision Server Eventsの構成』を参照してください。
- Websphere Application Server 用 Operational Decision Manager ランタイム・プロファイル・テンプレートを配布する場合は、『Operational Decision Manager プロファイル・テンプレート』を参照してください。
- Decision Center でルールを編集およびテストするビジネス・ユーザーは、『構成』を参照してください。

Operational Decision Manager を使用した開発ライフサイクルをよりよく理解するには、『ビジネス・ルール・アプリケーションの開発』を参照してください。

関連タスク:

Decision Server Events の構成

15 ページの『サンプル・サーバーによる製品のインストール』 「サンプル・サーバー」インストール・オプションは、IBM Operational Decision Manager 製品ファミリーを必須ソフトウェアと一緒にインストールします。また、 サンプルおよびチュートリアルを実行するために、WebSphere Application Server 上 にサンプル・サーバー・プロファイルも作成します。

関連情報:

WebSphere Application Server 上の Rule Execution Server の構成 WebSphere Application Server 上の Decision Center の構成

別のバージョンへのアップグレード

製品の別のバージョンへのアップグレード、あるいはフィーチャーや機能の追加や 削除の前に、予備ステップを実行する必要があります。

関連タスク:

60ページの『製品のアンインストール』

Operational Decision Manager をアンインストールするには、Installation Manager の アンインストール・オプションを使用する必要があります。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』 必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

Operational Decision Manager への Operational Decision Manager Express のアップグレード

Operational Decision Manager Express から Operational Decision Manager ヘアップ グレードする場合は、最初に製品の完全なアンインストールを実行し、ゼロから始 める必要があります。 Operational Decision Manager Express から Operational Decision Manager にアップ グレードすると、イベント・フィーチャーおよびクラスター機能の利便性が得られ ます。

この場合、単に Installation Manager の「変更」オプションを使用して完全なバージョンにアップグレードするということはできません。まず、Express バージョンを完 全にコンピューターからアンインストールしてから、ランチパッドまたは Installation Manager を使用して再インストールする必要があります。

バージョン 8.5 からバージョン 8.5.1 へのアップグレード

インストール済みのバージョンをバージョン 8.5.1 ヘ更新する前に、既存バージョ ンのデータベースにアクセスしている、実行中のプロセスがないことを確認する必 要があります。

特に、Derby データベースを使用している場合は、 Derby Java プロセスが実行中で はないこと、および現行データベース・ディレクトリー内に、残留 Derby ロック・ ファイルがないことを確認してください。このファイルが存在すると、インストー ルが失敗する原因となります。

<InstallDir>/shared/data/derby/resdb ディレクトリー内で、 db.lck を見つけ、 更新を開始する前に削除してください。

製品のアンインストール

Operational Decision Manager をアンインストールするには、Installation Manager の アンインストール・オプションを使用する必要があります。

始める前に

サーバーを含め、製品と一緒に実行されているすべてのアプリケーション、Rule Designer または Event Designer のインスタンス、およびローカル・ヘルプ・プロセス (使用可能になっている場合) が停止されていることを確認してください。

パッケージをアンインストールするには、製品パッケージのインストールに使用し たユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウントを使用してシステムにログイ ンする必要があります。 製品のアンインストールに Installation Manager の正しい インスタンスを使用していることを確認してください。

- 管理者として製品をインストールした場合、Installation Manager の管理者インス タンスを使用してアンインストールする必要があります。これは「IBM Installation Manager」の「スタート」メニューのショートカットからアクセスで きます。
- 非管理者ユーザーとして製品をインストールした場合、 Installation Manager の 非管理者インスタンスを使用してアンインストールする必要があります。これは 「My IBM Installation Manager」の「スタート」メニューのショートカットか らアクセスできます。

WebSphere Application Server および WebSphere eXtreme Scale を正常にアンインス トールするには、まず ODMSample8500 プロファイルを手動で削除する必要がありま す。これらのプロファイルは、ランチパッドの「サンプル・サーバー」インストー ル・オプションを使用して製品をインストールしたときに作成されます。詳しく は、『プロファイルの削除』を参照してください。

アンインストール対象のパッケージと依存関係にある別のパッケージが存在する場合は、その別のパッケージのアンインストールも選択しなければ、対象パッケージ をアンインストールすることはできません。

手順

- 1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
- 2. 「スタート」メニューから Installation Manager を起動します。
- 3. アンインストールするコンポーネントを選択してから、「次へ」および「アンイ ンストール」をクリックします。

関連概念:

59ページの『別のバージョンへのアップグレード』

製品の別のバージョンへのアップグレード、あるいはフィーチャーや機能の追加や 削除の前に、予備ステップを実行する必要があります。

9ページの『インストール・オプション』

IBM Operational Decision Manager をインストールする前に、Decision Server および Decision Center を使用する方法、および既存の実動サーバーでこれらの製品を構成するかどうかを検討します。ニーズに応じて選択できるインストール・オプションがいくつかあります。

13ページの『ランチパッドによる製品のインストール』

Operational Decision Manager には、製品を追加の必須ソフトウェアと一緒にインス トールする際に役立つランチパッドが同梱されています。このランチパッドには、 サンプル・サーバーおよびカスタム・インストールという 2 つのインストール・オ プションがあります。

関連情報:

21 ページの『Installation Manager による製品のインストール』

必須ソフトウェアが既にインストールされている場合は、Installation Manager を使 用して、インストールしたい特定の Operational Decision Manager パッケージを選 択することができます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサー ビスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用 可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所 有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを 使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサ ービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む)を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM お よびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提 供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むす べての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっ ては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限 を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM United Kingdom Laboratories, Mail Point 151, Hursley Park, Winchester, Hampshire, England SO21 2JN

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があ ります。 お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。 よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。 これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手 法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて います。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラ ットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠した アプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる 形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布するこ とができます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテス トを経ていません。 したがって IBM は、これらのサンプル・プログラムについて 信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはでき ません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供 されるものであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サン プル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いませ ん。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的 創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プロ グラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。 他の製品名およびサービス名等は、そ れぞれ IBM または各社の商標である場合があります。 現時点での IBM の商標リ ストについては、 http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国および その他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国お よびその他の国における商標または登録商標です。



Printed in Japan